



Title	陳士元『夢占逸旨』内篇訳注（三）
Author(s)	清水, 洋子
Citation	中国研究集刊. 2010, 51, p. 1-57
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/60923">https://doi.org/10.18910/60923</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 陳士元『夢占逸旨』内篇訳注（三）

清水 洋子

### はじめに

本編は、陳士元『夢占逸旨』内篇訳注の第三稿である。長柳篇および昼夜篇を対象とした「陳士元『夢占逸旨』内篇訳注（二）」（『中国研究集刊』麗号（第四十八号）、大阪大学中国哲学学会、二〇〇九年）に続き、本編では衆占篇および宗空篇を訳注の対象とする。

### 凡例

・『夢占逸旨』の底本は、陳士元撰『帰雲別集』（道光十三年応城呉毓梅校刊同治十三年修補本）所収本（以下、「帰本」と称す）を使用し、呉省蘭輯『芸海珠塵』（民国五十七年台北芸文印書館景嘉慶中南匯吳氏聰彝堂刊本）所収本（以下、「芸本」と称す）を校本とする。

- ・ 本文には【原文】【書き下し文】【現代語訳】【語注】を付し、自注には【原文】【書き下し文】を付す。
- ・ 底本と校本との異同については、【原文】中の傍線部と丸数字とで示し、【校異】で詳細（校訂を要する場合など）を挙げる。
- ・ 旧字体や異体字は、必要な場合を除き新字体に改めた。
- ・ 文意の補足は（一）で、注記は（二）で示した。
- ・ 自注の引用文に出拠が明示されていない場合は、可能な限り補い、【書き下し文】の中で示した。
- ・ 自注の引用文には、陳の翻案あるいは誤引と思われるものもある。参考として、出拠の原文を本編末の注に付す。

## 衆占篇第四

【原文】

【本文】 衆占非一、惟夢為大、

【自注】 漢芸文志、雜占者、記百事之象、候善惡之徵、衆占

非一、而夢為大、故周有其官、

【校異】

① 芸本は、「記」を「紀」に作る。

\* 芸本は、「漢書芸文志」とし、その下に「曰」を付す。

【書き下し文】

【本文】 衆占は一に非ざるも、惟だ夢のみを大となす。

【自注】 漢芸文志、雜占は、百事の象を記し、善惡の徴を候う

なり。衆占は一に非ずして、夢もて大となす。故に

周に其の官あり。(注一)

【現代語訳】

もろもろの占いはどれも同じではないが、その中でも

特に夢だけは重視される。

【語注】

○ 衆占・雜占……日常生活における身近な物事の形象により、それが示す吉凶を占う類のもの。「百事之象」は、あらゆる物事のかたちのこと。『漢書』芸文志「雜占」の項には、夢のほか「武禁相衣器(衣類を製する日を占う)」「禳祀天文(日月星辰)」、怪現象、財物、魚、樹木や果実を対象とする占いの名が見える。○ 故周有其官……『周礼』では、龜卜・筮卜を司る「卜師」「龜人」「蕪氏」「占人」「筮人」に続いて「占夢」の官が置かれている。「占夢、掌其歲時、觀天地之會、弁陰陽之氣。」(『周礼』春官・占夢)

【原文】

【本文】 夢与兆易準、故三代尚焉、洛出丹書、乃設九疇、兆

法著矣、河出緑図、乃列八卦、易法行矣、

【自注】 邵子、円者河図之數、方者洛書之文、

春秋緯\*、河以通乾出天苞、洛以流坤出地符、

【校異】

① 帛本は「著」に作る。ここでは芸本に従い「著」に改めた。

② 帰本は「天」に作る。ここでは、芸本と『春秋説題辞』

に「河以通乾、出天苞。洛以流坤、吐地符」とあるのに従い、「乾」に改めた。

\* 芸本は、「邵子」「春秋緯」の下にそれぞれ「曰」を付す。

【書き下し文】

【本文】 夢は兆易と準う。故に三代焉を尚ぶ。洛丹書を出だせば、乃ち九疇を設け、兆法著わる。河緑図を出だせば、乃ち八卦を列ね、易法行わる。

【自注】 邵子『皇極經世書』、円は河図の数、方は洛書の文。(注2)

春秋緯『春秋説題辞』、河は乾に通ずるを以て天苞を出だし、洛は坤に流るるを以て地符を出だす。(注3)

【現代語訳】

占夢は、亀卜・筮卜を手本としている。それゆえ(夏・殷・周の)三代も占夢を重んじたのである。赤い文字で書かれた書物が洛水から現れたので、「禹王は」天下を治める九つの大法を設け、そこで兆法が著された。「また」緑色で描かれた図が黄河から現れたので、「伏羲は」八卦を列ね、そこで易法が行われた。

【語注】

○ 洛出丹書、乃設九疇、兆法著矣、河出緑図、乃列八卦、易法行矣……古代聖人が洛書により洪範九疇を發し、河図により卦を画したという伝説。「洛書」(洛水に現れた亀の背に書かれた書)は、治水に従事する禹に与えられた瑞祥で、「洪範九疇」(洛書に記された九つの数に順序を与え、天下を治める九類の法としてまとめたもの)の起源とされる。『夢占逸旨』原文の「兆法」は、「洪範九疇」(五行・五事・八政・五紀・皇極・三徳・稽疑・庶徴・五福)のうち、「稽疑」(疑わしい事を考えて正す)における亀卜を指す(偽孔伝「明用卜筮考疑之事」)。「河図」(黄河に現れた龍馬の背に描かれた図)は、伏羲に与えられた瑞祥で八卦の起源とされる。「劉歆以為伏羲氏繼天而王、受河図、則而画之、八卦是也。禹治洪水、賜洛書、法而陳之、洪範是也。」(『漢書』五行志)(注4)○ 円者河図之数、方者洛書之文……「円」は変転無窮なさま、「方」は秩序があり整然としているさま。「円者運而不窮、方者止而有分」(『易』繫辞上伝「著之徳円而神、卦之徳方以知」韓康伯注)また、張行成『皇極經世観物外篇衍義』卷四「円者河図之数、方者洛書之文」節は、河図について「地未成形、造物之初、天之気数也。故円以象天」、

洛書について「地已成形、生物之後、地之形数也。故方以応地」と述べ、河図・洛書にそれぞれ「天・円」「地・方」の性質を見て取る(注5)。「衍義」では更に「易者道之變化、範者事之法則」と続いており、「天・円」は河図を起源とする易の無窮に變化するさまを示し、「地・方」は洛書を起源とする九疇の秩序整然たるさまを示すものと考えられる。

【原文】

本文 占夢之秘、固性命之理而兆易之揆也、

自注 呂氏読詩記、人之精神与天地陰陽流通、故夢各以類

至、知此則可以言性命之理矣、

王充論衡\*、占夢与占亀同、

【校異】

① 帛本は「夢衍各」とする。ここでは芸本と『呂氏家塾読詩記』に従い「衍」を削除した。

\* 芸本は、「呂氏読詩記」「論衡」の下にそれぞれ「曰」を付す。

【書き下し文】

本文 占夢の秘、固より性命の理にして兆易の揆なり。

自注 『呂氏読詩記』、人の精神と天地陰陽とは流通す。

故に夢は各おの類を以て至る。此れを知れば則ち以て性命の理を言うべし。(注6)

王充『論衡』、占夢と占亀とは同じ。(注7)

【現代語訳】

占夢の秘奥は、本来、人性(人間の精神)と天命(天地陰陽)が通じ合うことわりであり、「天地の變化にあまねく通じるといふ」亀卜・筮卜の法度(に通ずるもの)である。

【語注】

○ 性命之理……互いに變化流通しあう人性と天命の理法。『易』説卦伝に「昔者聖人之作易也、將以順性命之理。

是以立天之道、曰陰与陽。立地之道、曰柔与剛。立人之道、曰仁与義。兼三才而兩之、故易六画而成卦」とある。

ここでは、天地万物の事象が變化流通する中から世界の真実を知るところに占夢の秘奥があるということ。○ 兆易之揆……「揆」は、道理、のり。

【原文】

【本文】三兆之体、其経皆百有二十、其頌皆千有二百、

【自注】周礼注、頌謂繇也、三兆、体繇之數同、其名占異耳、

百二十每体十繇、体有五色、又重之以墨垢也、

【校異】

\*芸本は、「周礼注」の下に「曰」を付す。

【書き下し文】

【本文】三兆の体、其の経はみな百有二十。其の頌はみな千有二百。(注8)

【自注】

『周礼』注、頌とは繇ちやうを謂うなり。三兆は、体繇の數同じ。其の名占異なるのみ。百二十体は体ごとに十繇あり、体に五色あり、又た之を重ぬるに墨垢ぼくごを以てするなり。(注9)

【現代語訳】

龜卜の三兆（玉兆・瓦兆・原兆）における「龜甲の」割れ目の形には、正当とされるものが全部で百二十ある。

〔さらに〕それらの占辭は全部で千二百ある。

【語注】

○三兆之体、其経皆百有二十、其頌皆千有二百……「経」

（『周礼』では「経兆」は、龜卜において正当とされる

兆（龜卜時に生じる割れ目）。「経兆者、謂龜之正経。」（鄭

玄注）「体」は割れ目のかたち「体、兆象也。色、兆気也。

墨、兆広也。垢、兆寧也。」（『周礼』春官・占人 鄭玄注）

○頌謂繇也……「頌」「繇」は、龜卜の割れ目の状態に充

てられた占辭。「繇之説兆、若易之説卦。」（『周礼』春官・

大卜 賈公彦疏）○三兆、体繇之數同、其名占異耳……玉

兆・瓦兆・原兆における「体」「繇」の数はそれぞれ同じ

でも、名称と占いの内容は異なるということ。○百二十

每体十繇、体有五色、又重之以墨垢也……「五色」は兆

の気色。「墨」は大きな割れ目、「垢」は小さな割れ目。

位の尊い者は「体」のみで占断すればよく、「色」や「墨」

「垢」を見る必要はなかったとされる。「尊者視兆象而已、

卑者以次詳其余也。」（『周礼』春官・占人 鄭玄注）、「体、

王其罔害。」（『尚書』周書・金縢）

【原文】

【本文】三易之体、其経皆八、其別皆六十有四、

【自注】周礼注、三易、卦別之數亦同、其名占異也、每卦八、

別者重之數、

【校異】

\*芸本は、「周礼注」の下に「曰」を付す。

【書き下し文】

【本文】三易の体、其の經みな八、其の別みな六十有四。(注9)

【自注】『周礼』注、三易、卦別の数も亦た同じ。其の名占

異なるなり。卦ごとに八あり。別は之を重ぬるの数なり。(注11)

【現代語訳】

筮卜の三易(連山・帰蔵・周易)に現れる(卦の)形には、正卦が全部で八あり、その数を重ねたものは全部で六十四ある。

【語注】

○三易之体……『周礼』には「三易之法」とある。「体」は兆体のほか(前節参照)、卦体の意味としても用いられる。「体、兆卦之体也。」(『詩経』衛風・氓「爾卜爾筮、体無咎言」毛伝)、「依毛義、卜筮兆卦通得謂之体。」(孫詒讓『周礼正義』) ○三易、卦別の数亦同、其名占異也……卦の数(八)と別の数(六十四)は、連山・帰蔵・周

易を通して同じだが、名称(「連山」「帰蔵」「周易」と占法は異なるということ。「連山帰蔵占七八、周易占九六、是占異也。」(賈公彦疏) ○每卦八、別者重之數……「別」は、数を重ねる(自乗する)こと。

【原文】

【本文】三夢之輝、其經皆十、其別皆九十、

【自注】周礼、眡禮掌十輝之法、以觀妖祥、弃吉凶、一曰禮、

二曰象、三曰鑑、四曰監、五曰闞、六曰瞽、七曰弥、

八曰叙、九曰隤、十曰想、

鄭衆注\*、輝日光氣也、

鄭玄注\*、王者於天日也、夜有夢、則昼視日旁之氣、

以占吉凶、凡所占者十輝、每輝九變、此術今亡、

【校異】

①芸本は、「占」の下に「其」を付す。

\*芸本は、「鄭衆注」「鄭玄注」の下にそれぞれ「云」を付す。

【書き下し文】

【本文】三夢の輝、其の經みな十、其の別みな九十。(注12)

【自注】

『周礼』 眡しん禋けんは十輝じゅうけいの法を掌り、以て妖祥を觀み、吉凶を弁ず。一に曰く禋けん、二に曰く象しやう、三に曰く鑑けん、四に曰く監かん、五に曰く閏わん、六に曰く瞽こ、七に曰く弥ひ、八に曰く叙じよ、九に曰く躋せい、十に曰く想そう。(注13)

『周礼』春官・眡禋 鄭衆注、輝は日の光氣なり。(注14)

『周礼』春官・大卜 鄭玄注、王は天における日なり。夜に夢あれば、則ち昼に日旁ひがとの氣を視みて、以て吉凶を占う。凡そ占う所ところのものは十輝。輝ごとに九変す。此の術今は亡ぶ。(注15)

【現代語訳】

占夢の三夢(致夢・躋夢・咸夢)「を占う」輝ひがきについて、正当とされるものは全部で十あり、「それぞれが更に九つに変化するため」分化したものは全部で九十ある。

【語注】

○三夢之輝、其経皆十、其別皆九十……「輝」は日旁ひがと(太陽周辺の光や雲氣からなる氣象光学現象)。「周礼」には「三夢之法、其経運十、其別九十」とある。「運」は「輝」と通用。「運或為繩、当為輝」(鄭玄注) 占夢と輝を無関係とする異説もあるが(注16)、陳士元は占夢と「輝」を関連づける鄭玄の解釈に従う。○十輝……十種類の日旁。

「禋」は、陰陽の気がたがいに侵しあつてなされたもの。

「梓慎日、禘之日、其有咎乎。吾見赤黑之禋。非祭祥也。喪氣也。」(『左伝』昭公十五年伝) 「象」は、赤い鳥の群

れのように、ある形を象つて現れた雲氣。「是歳也、有雲如衆赤鳥。夾日以飛三日。」(『左伝』哀公六年) 「鑑」は、

太陽の周囲を囲む日旁。「鄭司農云、……鑑謂日旁氣。四面反郷、如輝状也。」(『周礼』春官・眡禋 鄭玄注) 「監」

は、上下両端から太陽を守るように向かう雲氣。「閏」は、日食や月食により太陽光がなくなり、暗くなること。「瞽」

は、太陽や月が見えても、光が弱く薄暗いこと。「弥」は、太陽が一筋の雲気で貫かれたようになったもの。白虹貫

日。「叙」は、雲氣が太陽の上で山のように並んだもの。

「躋」は虹のこと。「虹者本名、因其為雨氣上升、映日成

采、故又謂之躋。」(孫詒讓『周礼正義』) 「想」は、日旁

の雜氣が人や物の形に見えるもの。上述の「象」に似る。

(孫詒讓『周礼正義』)

【原文】

——

【本文】 夢与兆易、豈有陰降乎、武王伐紂、夢協朕卜、

【自注】 周書泰誓、朕夢協朕卜、襲於休祥、

偽孔伝、言夢卜俱合於美善也、



【校異】

① 帛本・芸本ともに「孔融注」とするが、ここでは偽孔伝に従い改めた。

② 帛本は「善美」に作る。ここでは芸本と偽孔伝に従い「美善」に改めた。

\* 芸本は、「注」の下に「云」を付す。

【書き下し文】

【本文】 夢と兆易と、豈に隆降あらんや。武王 紂を伐つに、

「夢 朕が卜に協あう」と。

【自注】 『尚書』 周書泰誓、朕が夢 朕が卜に協あい、休祥

に襲かぬ。(注17)

偽孔伝、言うところは夢ト 俱ともに美善に合するなり。(注18)

【現代語訳】

占夢と龜卜・筮卜との間には、どうして優劣の区別があるうか。武王は紂を征伐するとき、「(私の)夢は、私の占卜に合致していた」と言った。

【語注】

○ 朕夢協朕卜、襲於休祥…… 紂を討伐する際に武王が行

った占いで、龜卜と夢が同じ吉(勝ち戦)を表すものとして合致したことをいう。「襲」は重なり合うこと。「休」はめでたいこと。「休、慶也。」(『爾雅』 釈言) ○ 美善…… 「美」は善いこと。「美、善也。」(『淮南子』 修務訓) 君子修美(高誘注)

【原文】

【本文】 衛史朝曰、筮襲於夢、武王所用、

【自注】 左伝、孔成子夢康叔謂己立元、又以周易筮之遇屯、

史朝曰、元亨、又何疑焉、筮襲於夢武王所用也、弗從何為、

【校異】

① 帛本は「侯為」に作るが、ここでは芸本と『左伝』に従い「叔謂」に改めた。

【書き下し文】

【本文】 衛史朝曰く、「筮の夢に襲かなるは、武王の用いし所なり」と。

【自注】

『左伝』(昭公七年伝)、孔成子 康叔の己に元げんを立てよと謂うを夢む。又た周易を以て之を筮せんして屯ちんに

遇う。史朝曰く、「元おおいに亨とよる。又た何をか疑わん。

筮の夢に襲おそなるは武王の用いし所なり。従わずして何をかなさん」と。(注19)

【現代語訳】

衛史朝は、「筮卜と夢とが合致するものであれば、武王もそれに従った」と言っている。

【語注】

○孔成子夢康叔謂己立元……孔成子と史朝の夢に衛の始祖である康叔が現れ、次の太子とその補佐役を指名した話。康叔は「元」を太子とし、孔成子の曾孫・圉と史朝の子・史苟にそれを補佐せると告げる。○以周易筮之遇屯、史朝曰、元亨、又何疑焉、筮襲於夢武王所用也、弗從何為……屯卦「屯、元（年長のこと）亨」により嗣子（年長の孟縶か、卦辞にある「元」を名とする元か）を選ぶにあたり、最終的には康叔の夢に従い元を選ぶこと。同様の話は次篇（宗空篇）「烝鉏夢康叔」節にも見える。

【原文】

本文 非達觀陰陽之故、深究天人之際、其孰能与於此、

【自注】 朱子\*、献吉夢、贈惡夢、其於天人相与之際、察之審、而敬之至矣、

王晦叔\*、天人同流相応而不遠、先王立官、以觀妖祥、弁吉凶、所以和同天人之際、使之無間也、

【校異】

① 芸本は、「先王」の下に「必」を付す。

\* 芸本は、「朱子」「王晦叔」の下にそれぞれ「曰」を付す。

【書き下し文】

本文 陰陽の故を達観し、天人の際を深究するに非ざれば、其れ孰か能く此れに与らあずかん。

【自注】 朱子『詩集伝』小雅・斯干、吉夢を献じ、惡夢を贈る。其の天人相与の際におけるや、之を察すること審らかにして、之を敬むこと至れるなり。(注20)

王晦叔（元・陳友仁輯『周礼集説』卷五眡禋）、天人流れを同じくすること相応じて遠からず。先王官を立てて、以て妖祥を觀、吉凶を弁ずるは、天人の際を和同し、これをして間なからしむる所以なり。

(注21)

【現代語訳】

陰陽「がめぐり万物が生じるところ」のことわりをあまねく見て取り、天と人とが繋がる妙所を深く極めつくしていないければ、占夢を行うことなどできない。

【語注】

○献吉夢、贈悪夢……『周礼』春官・占夢に「季冬、聘王夢、献吉夢于王。王拜而受之。乃舍萌于四方、以贈悪夢、遂令始難驅疫」とある。王のために集めた吉夢を献上し（鄭玄注「因献群臣之吉夢於王、帰美焉。」）、不祥の夢を送り去ること（賈公彦疏「歳将尽、新年方至、故於此時贈去悪夢。」）。「贈」は追いやること。「杜子春云、……贈謂逐疫。」（『周礼』春官・男巫「冬堂贈」鄭玄注）

宗空篇第五

【原文】

本文 宗空生、問於通微主人曰、夢者幻也、与露電泡影等、

自注 仏経、一切有為法、如夢幻泡影、如露亦如電、応作

如是観、

【書き下し文】

本文 宗空生、通微主人に問<sup>う</sup>げて曰く、「夢は幻なり。露・電・泡・影と等し。

電・泡・影と等し。

自注

仏経、一切の有為法、夢・幻・泡・影の如く、露の如く亦た電の如し。応に是くの如き観を作すべし。（注せ

【現代語訳】

宗空生が通微主人に告げて言った。「夢とは幻である。

〔現れてはすぐに消えゆく〕露・電・泡・影と同じである。（次節に続く）

【語注】

○宗空生・通微主人……本篇は、仏教の立場から夢に意味のないことを説く宗空生と、儒家の立場から夢の価値を論じる通微主人の討論からなる。「宗空」は、「空（世界における事物には実体がないとする仏教概念）を宗ぶ」意、「通微」は、「微（万物における微細な現象やきざし）に通ずる」意。「通微、無不通。」（周敦頤『通書』思第九）○一切有為法、如夢幻泡影、如露亦如電、応作如是観……因縁から生じるあらゆる事物は、夢・幻・泡・影のように無相ではないものである、ということ。

【原文】

本文 一切起滅、皆帰虚妄、主人曰、女奚不稽之古乎、軒

轅氏有華胥・録図・風后・力牧之夢、

【自注】

列子、黄帝昼寝、而夢遊於華胥氏国、不知距中国幾

千里。蓋非舟車足力之所及、神遊而已、黄帝既寤、

怡然自得、又二十八年天下大治、幾若華胥氏国、

河図挺佐輔、黄帝召天老而問焉、余夢見兩龍挺白図

以授余於河之都、天老曰、河出龍図、洛出龜書、紀

帝録、列聖人之姓号也、天其授帝図乎、黄帝乃祓齋

七日、至翠嬌之川、大鱸魚泛白図蘭葉朱文以授帝、

名曰録図、  
帝王世紀、黄帝、夢大風吹天下之塵垢皆去。又夢人

執千鈞之弩、驅羊万群、帝寤歎曰、風為号令、執政

者也、垢去土后在也、天下豈有姓風、名后者哉。千

鈞之弩異力者也、驅羊万群能牧民為善者也、天下豈

有姓力、名牧者哉、依二占求之得風后・力牧、以為

将相、因著夢経十一篇、

【校異】

① 芸本は、「女」を「汝」に作る。

② 帰本は「黄帝」とするが、芸本に従い改めた。

③ 帰本は「垢去后土者也」とする。ここでは芸本と『史

記正義』所引の『帝王世紀』に従い改めた。

\* 芸本は、「列子」「河図挺佐輔」「世紀」の下にそれぞれ「曰」を付す。

【書き下し文】

【本文】 一切の起滅、みな虚妄に帰す」と。(通微) 主人曰

く、「女 奚ぞ之を古に稽えざらんや。軒轅氏に華

胥・録図・風后・力牧の夢あり。

【自注】

『列子』(黄帝)、黄帝 昼寝、華胥氏の国に遊

ぶを夢む。中国を距つこと幾千里なるを知らず。蓋

し舟車足力の及ぶ所に非ず。神遊ぶのみ。黄帝既

に寤め、怡然として自得す。又た二十八年天下大い

に治まる。幾んど華胥氏の国の如し。(注23)

『河図挺佐輔』、黄帝 天老を召して問う。「余 夢

に兩龍白図を挺き以て余に河の都に授くを見る」と。

天老曰く、「河は龍図を出だし、洛は龜書を出だす。

帝録を紀し、聖人の姓号を列ぬるなり。天 其れ帝

に図を授けん」と。黄帝乃ち祓齋すること七日、翠嬌

の川に至る。大鱸魚 白図の蘭葉朱文なるを泛べ以

(注24)

〔皇甫謐〕『帝王世紀』、黄帝、大風吹きて天下の塵垢みな去るを夢む。又た人の千鈞の弩を執り、羊万群を驅るを夢む。帝寤め歎じて曰く、「風は号令を為し、政を執る者なり。垢より土を去れば后在るなり。天下 豈に姓は風、名は后なる者あらんや。千鈞の弩は異力ある者なり。羊万群を驅るは能く民を牧し善をなす者なり。天下 豈に姓は力、名は牧なる者あらんや」と。二占に依りて之を求めて風后・力牧を得、以て将相となす。因りて『夢経』十一篇を著わす。(注25)

【現代語訳】

あらゆる一切のものの生成生滅は、すべて虚妄でしかないのだ」と。通微主人が言った。「あなたは、なぜ夢のことをこれまでの歴史の中で考えようとしなのか。黄帝には、華胥・録図・風后・力牧の夢があるではないか。(次節に続く)

【語注】

○主人曰……通微主人の反論。以下、古代の帝王から孔子に至るまでの事例を列記し、夢が重要な役割を担ってきたことを示す。○華胥……華胥の国。黄帝が夢の中で

周遊したという太平の国。「華胥氏之国在兪州之西、台州之北。」(『列子』黄帝)「何謂九州。……正西兪州曰并土、正中冀州曰中土、西北台州曰肥土、……」(『淮南子』墜土)○風后・力牧……黄帝が自身の夢をもとに得たとされる臣下。大風が塵芥を吹き飛ばす夢から「風后」という名を得、重い弩を持って羊の大群を驅り立てる人物の夢から「力牧」という名を得たという。「千鈞」は非常に重いことのたとえ(一鈞は三十斤)。

【原文】

【本文】堯有攀天・乘龍之夢、

【自注】東觀漢記\*、和熹皇后、夢捫天、天体若鍾乳、后仰喩

之、以訊占夢、占夢者言、堯夢攀天而上、湯及天祗之、此皆聖王之夢、

白孔六帖\*、堯舜上聖符域内之休徵、注引夢書云、堯夢乘青龍上泰山、舜夢擊鼓、路史\*、堯夢御龍以登雲天而有天下、

【校異】

① 鼎本は「惹」に作る。ここでは芸本と『東觀漢記』に従い「熹」に改めた。

② 帛本は「力」に作る。ここでは芸本と『白孔六帖』に従い「内」に改めた。

③ 芸本は、「泰」を「太」に作る。

\* 芸本は、「東觀漢記」「白孔六帖」「路史」の下にそれぞれ「曰」を付す。

【書き下し文】

【本文】 堯に攀天・乗龍の夢あり。

【自注】 『東觀漢記』、和熹皇后、夢に天を捫なづ。天の体鍾

乳の若し。后 仰よぎて之を喻よえり。以て占夢に訊ぬ。

占夢者言う、「堯は天に攀よじて上るを夢み、湯は天

に及びて之を舐む。此れみな聖王の夢なり」と。(注26)

『白孔六帖』、堯舜の聖符を上あぐるは域内の休徴なり。

注に『夢書』を引きて云わく、「堯は青龍に乗りて泰

山に上るを夢み、舜は鼓を撃つを夢む」と。(注27)

『路史』、堯は龍を御して以て雲天に登るを夢みて

天下たみを有もてり。(注28)

【現代語訳】

堯には天に登る夢・龍に乗る夢があった。(次節に続く)

【語注】

○攀天……「攀」はつかまりよじ登ること。登攀とうはん。○堯  
舜上聖符域内之休徴……「聖符」は、攀天や乗龍などの  
神聖な符祥のこと。これらの夢により、堯舜が為政者とな  
ったことを天下における幸いとする。

【原文】

【本文】 舜有長眉・擊鼓之夢、

【自注】 帝王世紀、舜夢眉長与髮等、堯乃賜以昭華之玉、老

而命舜代己攝政、

後魏温子昇撰舜廟曰、感夢長眉、明揚仄陋、擊鼓見

上、

【校異】

① 帛本は「長眉」に作るが、ここでは芸本と『太平御覽』

に従い「眉長」に改めた。

② 芸本は、「擊鼓」の下に「注」を付す。

\* 芸本は、「帝王世紀」の下に「曰」を付す。

【書き下し文】

【本文】 舜に長眉・擊鼓の夢あり。

【自注】 『帝王世紀』、舜眉の長きこと髮と等しきを夢む。

堯は乃ち賜うに昭華の玉を以てし、老いては舜に命じて己に代わりて政を摂らしむ。(注29)

後魏 温子昇撰「舜廟」に曰く、「感じて長眉なるを夢み、仄陋を明揚する」と。(注30)「擊鼓」は上に見る。

【現代語訳】

舜には長い眉の夢・鼓を撃つ夢があった。(次節に続く)

【語注】

○明揚仄陋……堯が禪讓するに適した人物を広く求め、舜が推挙されたことを言う。「明明揚側陋。」(尚書)堯典)「明揚」は明らかに推挙すること。「仄陋」は側陋。辺鄙な場所や、そこにいる卑賤な身分の者。「側陋者、僻側淺陋之处。意言不問貴賤、有人則舉是、令朝臣広求賢人也。」(尚書)堯典 孔穎達疏)○擊鼓見上……前節「堯有攀天・乘龍之夢」節の自注「白孔六帖」を参照。

【原文】

本文 禹有山書・洗河・乘舟過月之夢、

自注 吳越春秋、禹登衡山、夢赤繡衣文男子、称玄夷蒼水

使者、謂禹曰、欲得我山書者、齋於黃帝之嶽、禹乃退、齋三日、登宛委發石得金簡玉字之書、言治水之要、遂周行天下、使益疏記之、名為山海經、帝王世紀、禹夢自洗於西河、白孔六帖、夏禹未遇時、夢乘舟月中過、

【校異】

① 芸本は、「衣文」を「文衣」に作る。

\* 芸本は、「吳越春秋」「帝王世紀」「白孔六帖」の下に、それぞれ「曰」を付す。

【書き下し文】

本文 禹に山書・洗河・乘舟過月の夢あり。

自注 『吳越春秋』、禹 衡山に登り、赤繡衣文の男子を夢む。玄夷蒼水の使と称せし者、禹に謂いて曰く、「我が山書を得んと欲する者は、黃帝の嶽に齋せ」と。禹 乃ち退き、齋すること三日。宛委に登り石を發いて金簡玉字の書を得れば、治水の要を言う。遂に天下を周行し、益をして之を疏記せしむ。名づけて『山海經』と為せり。(注31)

『帝王世紀』、禹 自ら西河に洗うを夢む。(注32)

『白孔六帖』、夏禹 未だ時に遇わずして、舟に乗り

月中を過ぐるを夢む。(注33)

【現代語訳】

禹には山書を得る夢・河で自分を洗う夢・船に乗り月の中を通り過ぎる夢があった。(次節に続く)

【語注】

○金簡玉字之書……「玉字」は玉のように美しい字、または意味内容のすぐれた文章。○使益疏記之……「益」は、禹の治水を補佐していた伯益のこと。「疏記」は簡条書きに記録すること。「疏、分條之也。」(『漢書』匈奴伝「於是説教单于左右疏記」顔師古注)

【原文】

【本文】湯有舐天之夢、

【自注】見前、

【校異】

①芸本は、「見前」の上に「解」を付す。

【書き下し文】

【本文】湯に天を舐むるの夢あり。  
【自注】前に見る。

【現代語訳】

湯には天を舐める夢がある。(次節に続く)

【語注】

○見前……「堯有攀天、乘龍之夢」節の自注『東觀漢記』に既出。

【原文】

【本文】桀紂有黒風・大雷之夢、

【自注】白孔六帖、桀紂下臨、作寰中之不軌、注引夢書、桀

夢黒風破其宮、紂夢大雷擊其首、

【校異】

①芸本は、「夢書」を「夢書云」とする。

\*芸本は、「白孔六帖」の下に「曰」を付す。

【書き下し文】

【本文】桀紂に黒風・大雷の夢あり。



【自注】『白孔六帖』、桀紂下臨して、襄中の不軌ふきを作す。

注に夢書を引く。桀は黒風、其の宮を破るを夢み、紂は大雷、其の首かみを撃つを夢む。(注34)

【現代語訳】

桀王と紂王には、それぞれ暴風が宮殿を破壊する夢・大きな雷が自分の頭に落ちる夢がある。(次節に続く)

【語注】

○黒風……暴風。○桀紂下臨、作襄中之不軌……桀王と紂王が、祭祀や軍事など国家運営に関わる法を遵守しなかつたことをいう。「軌」は踏み行うべき常軌。『左伝』隱公五年伝に「君將納民於軌物者也。故講事以度軌量謂之軌、取材以章物采謂之物。不軌不物謂之乱政」、その杜預注に「器用衆物不入法度、則為不軌不動」とある。

【原文】

【本文】文王有日月・丈人・海婦之夢、

【自注】帝王世紀、文王夢日月着其身、

莊子、文王觀於臧、見一丈人釣、欲授之政、明且厲

大夫曰、昔者寡人夢見良人、黑色而髯、乘駁馬而偏朱蹄、号曰寓政於臧丈人、庶幾民有瘳平、遂迎臧丈人而授之政、

博物志\*、太公為灌壇令、文王夢婦人当道哭、曰、吾是東海女、嫁為西海婦、今灌壇令当道、廢我行、我行必有大風雨、而太公有德、吾不敢以暴風雨過、文王明日召太公、三日三夜、果有疾風暴雨、從太公邑外過去、

【校異】

①芸本は、「文王」の上に「周」を付す。

②芸本は、「人」を「夫」に作る。

③芸本は、「過去」を「過」とする。

\*芸本は、「帝王世紀」「莊子」「博物志」の下にそれぞれ「曰」を付す。

【書き下し文】

【本文】文王に日月・丈人・海婦の夢あり。

【自注】『帝王世紀』、文王 日月の其の身に着くを夢む。(注35)

『莊子』(田子方)、文王 臧を觀て、一丈人の釣するを見、之に政を授けんと欲す。明且 大夫に厲みて曰く、「昔者、寡人夢に良人を見る。黑色にして髯あ

り、駁馬ばにして偏かたの朱蹄しゅていなるに乗る。号よびて「政を臧丈人さかに寓おせよ。民の瘳しうゆることあるに庶幾しよかからんか」と曰いう」と。遂に臧丈人を迎えて之に政を授く。

(注 36)

『博物志』太公灌壇かんだんの令となる。文王婦人の道に当たりて哭するを夢む。曰く、「吾は是れ東海の女なり。嫁して西海の婦となる。今灌壇の令道に当りて、我の行くを廢す。我行けば必ず大風雨あり。而るに太公に徳あれば、吾敢えて暴風雨を以て過ぎず」と。文王明日太公を召す。三日三夜、果して疾風暴雨あり、太公の邑より外に過ぎ去りぬ。(注 37)

#### 【現代語訳】

文王には、日月・丈人・海婦の夢がある。(次節に続く)

#### 【語注】

○丈人……老人。「丈人、老而杖於人者。」(『淮南子』道応訓「狐丘丈人」高誘注) ○寓政於臧丈人、庶幾民有瘳乎……文王が臧の地で出会った老人に政治を任せるならば、民も生き返ったようになる、ということ。

#### 【原文】

本文 太公有輔星之夢、

自注 尚書中候篇、太公未遇文王時、釣魚磻溪、夜夢得北

斗輔星神、告尚以伐紂之意、

#### 【校異】

① 帰本は「侯」に作る。ここでは芸本と『広博物記』に従い「候」に改めた。

\* 芸本は、「尚書中候篇」の下に「曰」を付す。

#### 【書き下し文】

本文 太公に輔星の夢あり。

自注 『尚書中候篇』太公未だ文王に遇わざる時、魚を磻溪に釣る。夜夢に北斗輔星の神、尚に告ぐるに

紂を伐つ意を以てするを得。(注 38)

#### 【現代語訳】

太公には輔星の夢がある。(次節に続く)

#### 【語注】

○輔星……北斗七星の第六星開陽の伴星。「輔星明近、輔臣親強。斥小、疏弱。」(『史記』天官書)「在北斗第六星

旁。』(『史記集解』孟康注)、「春秋運斗樞云、北斗七星、第一天樞、第一旋、第三機、第四樞、第五衡、第六開陽、第七搖光。』(『芸文類聚』卷一天部上)

い「間」に改めた。  
\*芸本は、「呂氏春秋」「孝經中契」「宋書」の下に、それぞれ「日」を付す。

【原文】

【本文】孔子有先君・芻兒・三槐・赤氣之夢、

【本文】孔子に先君・芻兒・三槐・赤氣の夢あり。

【自注】呂氏春秋、孔子絶粮陳蔡、昼寢、起曰、今者夢見先君、

【自注】『呂氏春秋』、孔子 粮を陳蔡に絶つ。昼寢、起きて曰く、「今 夢に先君に見ゆ」と。(注39)

孝經中契\*、孔子夢芻兒捶麟傷前左足、

『孝經中契』、孔子 芻兒の麟を捶ちて前左足を傷つくるを夢む。(注40)

宋書、孔子、夜夢三槐之間、豐沛之邦有赤氣、驅車、見芻兒傷麟之左足、求薪覆之、

『宋書』、孔子、夜 三槐の間、豐沛の邦に赤氣あるを夢む。車を驅らせるに、芻兒の麟の左足を傷つ

湘東王繹金樓子曰、孔子、夢三槐間、豐沛有赤纈、起呼顔回・子夏、往觀之、見赤蛇化為黃金、上有文曰卯金刀、応高祖起豐沛、

湘東王繹『金樓子』に曰く、孔子、三槐の間、豐沛に赤纈あるを夢む。起きて顔回・子夏を呼び、往きて之を觀るに、赤蛇の化して黃金となるを見る。上に文ありて曰く「卯金刀」と。高祖の豐沛に起こらんとするに応ず。(注41)

【校異】

①芸本は、「粮」を「糧」に作る。

②芸本は、「陳蔡」を「陳蔡之間」とする。

③帰本は「湖」に作る。ここでは、芸本と『梁書』に従

い「湘」に改めた。

④帰本と芸本は「門」に作る。ここでは『金樓子』に従

【現代語訳】

孔子には、先君・芻兒・三槐・赤氣の夢がある。(次節に続く)

【語注】

○赤氣・赤纈……赤色を帯びた氣象現象。「氣」は雲氣、「纈」はつむじ風。○湘東王繹……南朝梁の元帝（蕭繹）。○夢三槐間……「槐」はえんじゆの木。周王朝では三本の槐を植えて三公の座としたことから、転じて三公のことを言う。「面三槐、三公位焉。」（『周礼』秋官・朝士）○見赤蛇化為黄金、上有文曰卯金刀……「卯金刀」は漢の「劉」氏を指す。「漢姓卯金刀。」（『公羊伝』哀公十四年伝「反袂拭面、涕沾袍」何休注）

【原文】

本文 女節<sup>D</sup>有接星之夢、

自注 帝王世紀、黃帝時、有大星如虹、下流華渚、女節<sup>D</sup>夢接之意感、遂生少昊、

【校異】

① 帰本は「接」に作る。ここでは芸本と『帝王世紀』に従い「節」に改めた。  
② 帰本は「黃帝」とする。ここでは芸本に従い「帝王」に改めた。

\*芸本は、「世紀」の下に「曰」を付す。

【書き下し文】

本文 女節に星に接するの夢あり。

自注 『帝王世紀』、黃帝の時、大星の虹の如きものあり。

華渚に下流す。女節夢に之と接し意に感じ、遂に少昊を生めり。（注43）

【現代語訳】

女接には星に接触する夢がある。（次節に続く）

【原文】

本文 太姒有松柏棫柞之夢、

自注 周書、太姒夢周庭之梓化為松柏棫柞、

【校異】

\*芸本は、「周書」の下に「曰」を付す。

【書き下し文】

本文 太姒に松柏棫柞の夢あり。

自注 『周書』、太姒周庭の梓化して松柏棫柞となるを

夢む。(注44)

【現代語訳】

太姒には、松柏と椴柞の夢がある。(次節に続く)

【語注】

○松柏……松と柏は、人の節義あるさまのたとえ。「大寒之歳、衆木皆死。然後知松柏小彫傷。平歳則衆木亦有不死者。故須歲寒而後別之。喻凡人処治世、亦能自修整、与君子同。」(『論語』子罕「子曰、歳寒然後知松柏之後彫也」何晏注)○椴柞……たらのきとくぬぎ。「柞、櫟也。椴、白椴也。」(『詩経』大雅・緜「柞椴拔矣」鄭箋)

【原文】

【本文】伊母有白水之夢、

【自注】王充論衡\*、伊尹生時、其母、夢人謂己曰白水出疾東

走、母、明旦、視白水、即東走十里、顧其郷、皆為淵矣。

【校異】

\*芸本は、「論衡」の下に「曰」を付す。

【書き下し文】

【本文】伊母に白水の夢あり。

【自注】王充『論衡』、伊尹生まるる時、其の母、人の己に

謂いて「白水うすの水を出だせば疾く東のかたに走れ」と曰うを夢む。母、明旦、白水を出だすを視、即ち東のかた十里を走る。其の郷を顧みれば、みな淵となれり。(注45)

【現代語訳】

伊尹の母には白水の夢がある。(次節に続く)

【原文】

【本文】孔母有空桑・蒼龍之夢、

【自注】孔演図\*、孔子母微在、夢黒帝使請己、往語曰、汝乳

必於空桑、覺有感、后生孔子於空桑、  
宝櫃記\*、孔子生之夜、有二蒼龍旦天降、附微在之旁、  
微在因夢蒼龍而生孔子、有神女擎露、五老列庭、麟吐玉書之事、

【校異】

①芸本は、「后」を「後」に作る。

\*芸本は、「孔演図」「宝櫃記」の下にそれぞれ「曰」を付す。

【書き下し文】

【本文】 孔母に空桑・蒼龍の夢あり。

【自注】 『孔演図』、孔子の母徴在、黒帝の使い己を請うを夢む。往ゆけば語りて曰く、「汝が乳すること必ず空桑においてす」と。覚よむるに感あり。后のちに孔子を空桑に生めり。(注46)

『宝櫃記』 孔子生まるるの夜、二蒼龍 天を亘り降りて徴在の旁かたわららに附くことあり。徴在は蒼龍を夢みるに因りて孔子を生めり。神女露ささげを撃うげ、五老庭に列し、麟 玉書を吐くはくの事あり。(注47)

【現代語訳】

孔子の母には、空桑・蒼龍の夢がある。(次節に続く)

【語注】

○汝乳必於空桑……空桑で子を産むと夢で告げられたこと。「乳」は子を生むこと。「乳、生也。」(『史記索隱』扁鵲倉公列伝「菑川王美人懷子而不乳」)「空桑」は地名。

「空桑、地名。在魯也。」(『淮南子』本經訓「以薄空桑」

高誘注)「空桑」の語は伊尹出生説話にも見えるが(注45)参照)、これについては地名とする説や「伊尹の母の化身となる」靈木としての桑」とする説などがある。○神女玉書露ささげ、五老列庭、麟吐玉書之事……五老は、孔子誕生に際して現れた五星(木火土金水)の精のこと。「周靈王立二十一年、孔子生於魯襄公之世。……又有五老列於徴在之庭、則五星之精也。」(晋 王嘉『拾遺記』卷三)

【原文】

【本文】 比事皆孚、何為虚妄、生曰、此緯録稗説、六經未載也、

【自注】 漢末、賀良等作緯書、言經之有緯也、漢芸文志、小説者流、蓋出於稗官、如淳曰、細米為稗、瑣碎之言也、

【校異】

\*芸本は、「漢芸文志」の下に「曰」を付す。

【書き下し文】

【本文】 事を比ぶればみな孚まことなり。何ぞ虚妄ならんや」と。

〔宗空〕生曰く、「此の緯録（はいせき）稗説は、六経未だ載せざるなり」と。

**【自注】**漢末、賀良ら緯書を作りて、経の緯あるを言う。（注18）

『漢芸文志』、小説者流は、蓋し稗官より出ず。如淳曰く、「細米を「稗」となす。瑣碎（ささい）の言なり」と。（注19）

**【現代語訳】**

これらの事は並べてみればどれもまことのことである。どうして嘘（うそ）いつわりのものであろうか。「すると」宗空生が言った。「これらは緯書の記録や稗事（ばいじ）（に基づく話）であつて、六経も載せてはいない。」

**【語注】**

○六経未載也……ここでの「六経」は、『易』『書』『詩』『礼記』『周礼』『春秋』をいうか。○賀良等作緯書、言経之有緯也……夏賀良は前漢哀帝時の待詔。国運復興のために、年号と国号の改変を上書した。「赤精子之讖文」とは、高祖の母が赤龍に感じて高祖を生んだとされることから、赤帝の精と名乗ったことによる。「赤龍感女媧、劉季興。」（『詩含神霧』）「赤龍」は、本篇「孔子有先君・芻兕・三槐・赤氣之夢」節の自注に見える「赤綱」「赤蛇」

と共に、高祖が火徳に應じる帝王であることを示すものであるう。「自神農黃帝下歷唐虞三代而漢得火焉。故高祖始起、神母夜号、著赤帝之符、旗章遂赤、自得天統矣。」（『漢書』郊祀志）○小説者流、蓋出於稗官……「稗官」は、君主が政務を執る際の参考とするために、民間の話を集めて記録した役人。○細米為稗、瑣碎之言也……「稗」は、ひえのこと。細かい事柄のたとえ。

**【原文】**

**【本文】** 主人曰、九齡之与、

**【自注】** 礼記世子篇\*、文王謂武王曰、女何夢矣、武对曰、夢帝与我九齡、文王曰、我百、爾九十、吾与爾三焉。文九十七乃終、武九十三而終、

**【校異】**

①芸本は、「武」を「武王」とする。  
②芸本は、「文」を「文王」とする。  
\*芸本は、「礼記世子篇」の下に「云」を付す。

**【書き下し文】**

**【本文】** 〔通微〕 主人曰く、「九齡の与、

【自注】『礼記』〔文王〕世子篇、文王武王に謂いて曰く、

「女（なな）何をか夢む」と。武对えて曰く、「帝の我に九齡（きゅうれい）を与（あた）うるを夢む」と。文王曰く、「我は百、爾は九十なり。吾、爾に三を与えん」と。文は九十七にして乃ち終わり、武は九十三にして終わる。（注50）

【現代語訳】

通微主人が言つた。「九齡の与や、（次節に続く）」

【原文】

【本文】兩楹之奠、

【自注】礼記檀弓、夫子曰、余疇昔之夜、夢坐奠於兩楹之間、

【校異】

①芸本は、「礼記檀弓」を「檀弓篇」とする。

②芸本は、「余」を「予」に作る。

【書き下し文】

【本文】兩楹（りょうえい）之奠、

【自注】『礼記』檀弓、夫子曰く、「余疇昔（ちゆうせき）之夜、坐して兩楹の間に奠（てん）せらるるを夢む」と。（注51）

【現代語訳】

兩楹の奠は、（次節に続く）

【語注】

○奠於兩楹之間……「兩楹」は堂上の東西にある大柱。

自身が兩楹の間で飲食を進められている夢と、般人は兩楹の間で殯を行うことから、孔子は般人である自身の死を予見した。

【原文】

【本文】記於礼經、而春秋伝称夢尤繁、若晋侯夢熊、宋公夢鳥、

【自注】左伝、子産聘於晋、晋侯疾久、韓宣子曰、寡君寢疾

三月矣、今夢黄熊入於寝門、何厲鬼也、对曰、昔、

堯殛鯀羽山、其神化為黄熊、以入羽淵、実為夏郊、

三代祀之、晋為盟主、其或未之祀也、韓宣子祀夏郊、

晋侯有間、

左伝、宋景公無子、取公孫周之子得与啓畜於公宮、

未立、景公卒、大尹立啓矣、得夢啓北首而寢於廬門

之外、己為鳥而集於其上、味加於南門、尾加於桐門、

得曰、余夢美、必立、未幾六卿謀立得、是為宋昭公、



占曰、北首死象也、宋門東曰盧門、北曰桐門、寢於東門之外失国象也、己化為鳥集於啓身、踐啓之位也、

【校異】

① 帰本は「鳥」に作る。ここでは芸本に従い「鳥」に改めた。

② 芸本は、「子産」の上に「鄭」を付す。

③ 芸本は、「於」を「于」に作る。

④ 帰本は「人」に作る。ここでは、芸本と『左伝』に従い「入」に改めた。

⑤ 帰本は「泉」に作る。ここでは芸本と『左伝』に従い「淵」に改めた。

⑥ 帰本は「衍尹公」に作る。ここでは芸本と『左伝』に従い「大尹」に改めた。

【書き下し文】

【本文】 礼經に記さる。而して『春秋伝』は夢を称ぐること尤も繁し。晋侯の熊を夢み、宋公の鳥を夢みるが若し。

【自注】

『左伝』（昭公七年伝）、子産 晋に聘す。晋侯 疾めること久し。韓宣子曰く、「寡君 疾に寝ぬること三月なり。今 黄熊の寝門に入るを夢む。何の厲鬼

ぞや」と。対えて曰く、「昔、堯 鯀を羽山に殛す。其の神 化して黄熊となり、以て羽淵に入る。実に夏 郊となし、三代之を祀る。晋は盟主となりて、其れ或いは未だ之を祀らざるか」と。韓宣子 夏郊に祀る。晋侯 間ゆることあり。（注52）

『左伝』（哀公二十六年伝）、宋の景公子なし。公孫周の子 得と啓とを取りて公宮に畜い、未だ立てず。景公 卒するに、大尹 啓を立つ。得 啓の北首して盧門の外に寝ね、己は鳥となりて其の上に集まり、咮を南門に加え、尾を桐門に加うを夢む。得曰く、「余が夢は美し。必ず立たん」と。未だ幾ならずして六卿謀りて得を立つ。是れ宋の昭公となす。占に曰く、「北首は死の象なり」と。宋の門の東をば盧門と曰い、北をば桐門と曰う。東門の外に寝ぬるは国を失うの象なり。己化して鳥となり啓の身に集まるは、啓の位を踐むなり。（注53）

【現代語訳】

〔九齡を与える夢や兩楹に奠される夢は、どれも〕礼經（『礼記』）に記されている。それに、『春秋（左氏）伝』はとりわけ頻繁に夢のことを語っている。晋侯が熊を夢みたり、宋公が鳥を夢みたりする話のように。（次節

に続く)

【語注】

○今夢黃熊入於寢門、何厲鬼也……「黃熊」は獸の一種。一説に「黃能」とも。姿は熊に似ており、足は鼈や鹿に似るといふ。「黃熊、音雄。獸名。亦作能。……三足鼈也。解者云、獸非入水之物、故是鼈也。一曰、既為神何妨是獸。案説文及字林皆云能熊厲。足似鹿。然則能既熊厲。為鼈類。」(『左氏伝』昭公七年『釈文』)「厲鬼」は死者の悪霊。「厲、悪也。」(『広韻』)○昔堯殛鯀羽山、其神化為黃熊、以入羽泉、実為夏郊、三代祀之、晋為盟主……鯀(禹の父)は治水事業の不成功を理由に罰されたが(注5)、その魂は夏・殷・周三代において祀られた。子産は、晋が諸侯の盟主として周王朝の祭祀を補佐すべき立場でありながら実際には従事していない(鯀を祀っていない)点を指摘する。「郊」は天(上帝)を南郊に祀る郊祭で、鯀も祀られた。「夏后氏亦禘黃帝而郊鯀、祖顓頊而宗禹。」(『礼記』祭法)○北首死象也……北首は北枕。「死者北首、生者南郷。」(『礼記』礼運)

【原文】

本文 呂錡夢射月、声伯夢涉洄、

自注 左伝、晋<sup>①</sup>呂錡、夢射月中之、退入於泥、占曰、姬姓

日、異姓月、必楚王也、射而中之、退入於泥、必死矣、及戰、射共王中目、

左伝、声伯夢涉洄、或与已瓊瑰食之、泣而為瓊瑰盈其懷、声伯寤而懼、遂不敢占、

【校異】

① 帛本は「普」に作る。ここでは、芸本と『左伝』に従い「晋」に改めた。

② 芸本は、「遂不敢占」を「不敢占」とする。

【書き下し文】

本文 呂錡は月を射るを夢み、声伯は洄を渉るを夢む。

自注 『左伝』(成公十六年伝)、晋の呂錡、月を射て之に中

て、退きて泥に入るを夢む。占曰く、「姬姓は日なり。異姓は月なり。必ず楚王ならん。射て之に中て、退きて泥に入るは、必ず死せん」と。戦うに及び、

共王を射て目に中つ。(注5)

『左伝』(成公十七年伝)、声伯、夢に洄を渉り、或るひと己に瓊瑰を与えて之を食わしむ。泣きて瓊瑰となりて、其の懷に盈つ。声伯寤して懼れ、遂に

敢えて占わず。(注56)

【現代語訳】

呂錡は月を射る夢をみて、声伯は洹水を渉る夢をみた。  
(次節に続く)

【語注】

○呂錡夢射月……晋の呂錡が楚と戦う前にみた夢。「月を射る」ことは、呂錡が楚の共王の目を射ることとなり、「退きて泥に入る」ことは、呂錡が楚の養由基に射返されて命を落とすこととなる。○声伯夢涉洹、或与己瓊瑰食之、泣而為瓊瑰盈其懷……洹水(現在の河南省北部を流れる安陽河)を渡った魯の声伯(子叔嬰齊)に、何者が珠玉を食べさせようとし、また声伯の流す涙が珠玉となつて懷に満ちた夢。「瓊」は宝玉、「瑰」は寶石。「瓊玉。瑰、珠也。」(杜預注)玉を口に入れることは、「含」(死者の口を満たす含みだま)の象徴とされる。「食珠玉、含象。」(杜預注)、「大喪、贊贈玉、含玉。」(『周礼』天官・大宰)「含玉、死者口実、天子以玉。」(鄭玄注)、「孝子所以実親口也。縁生以事死、不忍虚其口。天子以珠、諸侯以玉、大夫以碧、士以貝、春秋之制也。」(『公羊伝』文公五年「王使榮叔婦含且贈。含者何。口実也」何休注)

○声伯寤而懼、遂不敢占……声伯は、死者の含みだまを象徴する夢を不吉として恐れ、占夢を戒めたことをいう。  
(しかし、三年後に占ったところ、翌日死んでしまう。)

【原文】

【本文】魯昭夢襄公、宋元夢平公、

【自注】

左伝、楚靈王成章華之台、願与諸侯樂之、魯昭公將往、夢襄公祖、梓慎曰、公不果行、襄公之適楚也、夢周公祖而行、今襄公美祖、君其不行、子服惠伯曰、行、先君未嘗適楚、故周公祖以道之、襄公適楚矣、而祖以道君、不行何之、三月、公如楚、左伝、宋元公將如晋、夢太子欒即位於廟、己与先君平公服而相之、且召六卿告焉、元公行卒於曲棘、

【校異】

①芸本は、「樂」を「落」に作る。

【書き下し文】

【本文】魯昭は襄公を夢み、宋元は平公を夢む。

【自注】

『左伝』(昭公七年伝)、楚の靈王章華の台を成し、諸侯と之を樂しまんことを願う。魯の昭公將に往

かんとするに、襄公祖するを夢む。梓慎曰く、「公は行くを果たさざらん。襄公の楚に適くや、周公の祖するを夢みて行きぬ。今襄公実じつに祖す。君は其れ行かざらん」と。子服恵伯曰く、「行かん。先君は未だ嘗て楚に適かざるが故に周公祖して以て之を道く。襄公は楚に適けり。而して祖して以て君を道く。行かずして何くに之かん」と。三月、公楚に如く。(注57)

『左伝』(昭公二十五年伝)、宋の元公將に晋に如かんとするに、太子欒らん(宋の景公)廟に即位し、己と先君平公と服して之を相くを夢む。且に六卿を召して告ぐ。元公行きて曲棘に卒す。(注58)

### 【現代語訳】

魯昭は襄公を夢にみて、宋元は平公を夢にみた。(次節に続く)

### 【語注】

○魯昭夢襄公、宋元夢平公……いずれも、先代が現れる夢として挙げられている。○夢襄公祖……「祖」は、出発の際に道祖神を祭ること。○宋元公將如晋、夢太子欒即位於廟、己与先君平公服而相之、且召六卿告焉、元公

行卒於曲棘……宋の元公が、魯の昭公復帰のため晋に行こうとする時にみた、自分と先君が太子の即位を補助する夢。翌日、元公は六卿を召し、有事の際は自身の葬儀を先君よりも質素にせよと命じるものの、六卿は、葬儀の制度には背けないと拒む。その後、出発した宋公は曲棘(現在の河南省開封市蘭考県)で亡くなる。

### 【原文】

【本文】 晋文夢楚子、衛莊夢良夫、

### 【自注】

左伝、晋侯夢被楚子伏己而盪其腦、晋侯懼、子犯曰、吉、我得天、楚伏其罪、吾且柔之矣、及戰楚師潰、左伝、衛莊公殺渾良夫、夢往北宮、見人登昆吾之觀、被髮北面而諫曰、登此昆吾之虛、縣縣生之瓜、余為渾良夫、叫天無辜、莊公筮之、胥弥赦占之、不敢実、対賞以邑、不受而逃、是年冬十一月、莊公為己氏所殺、

### 【校異】

- ① 帰本は「教」に作る。ここでは芸本と『左伝』に従い「叫」に改めた。
- ② 芸本は、「莊公」を「莊公親」とする。

【書き下し文】

【本文】 晋文は楚子を夢み、衛莊は良夫を夢む。

【自注】 『左伝』〔僖公二十八年〕、晋侯 楚子に己を伏して

其の腦を鹽すわるるを夢む。晋公懼おそる。子犯しはん曰く、「吉なり。我は上に向かいて天を得、楚は其の罪に伏す。吾れは且つ之を柔にせり」と。戦うに及び楚師潰つぶえたり。(注59)

『左伝』〔哀公十七年伝〕、衛の莊公 渾良夫を殺す。

夢に北宮に往ゆき、人の昆吾こんごの觀かんに登り、被髮北面して譟さうぎ、「此の昆吾の虚に登れば、髡めんのん髡として生うるの瓜あり。余は渾良夫たり。天に辜つみなきを叫ばん」と曰うを見る。莊公之を筮さし、胥彌赦しよみじや之を占い、「実じつに対するに致さず」と。賞するに邑を以てするも、受けずして逃ぐ。是の年冬十一月、莊公 己氏きしの殺す所となる。(注60)

【現代語訳】

晋の文公は楚子を夢にみて、衛の莊公は良夫を夢にみた。(次節に続く)

【語注】

○晋侯夢被楚子伏己而鹽其腦、晋侯懼、子犯曰、吉、我向上得天、楚伏其罪、吾且柔之矣……夢の中で晋侯の腦を吸った楚子は柔弱になるということ。そこから、晋侯が戦で楚子に勝つことをいう。腦はものを柔らかくする作用があるとされ(杜預注「腦所以柔物。」、腦の近くにある動物の角の根本も柔らかいという。「夫角之末、蹙於腦而休於氣。是故柔。柔故欲其執也。白也者、執之徵也。」「周礼」冬官考工記・弓人)○衛莊公殺渾良夫……渾良夫は、衛の孔氏に仕える近習。「衛孔圉、取大子蒯躄之姉。生懼。孔氏之豎渾良夫、長而美。孔文字卒。通於内。」「哀公十五年伝」渾良夫は、衛の太子蒯躄(莊公)が亡命先から衛に戻り君主となる手助けをし、死罪を三回免除することを保証されたが(哀公十五年)、後にそれを越える罪を犯したとして莊公に殺された(哀公十七年)。

○夢往北宮見人登昆吾之觀、被髮北面而譟曰、登此昆吾之虚、髡髡生之瓜、余為渾良夫、叫天無辜……夢で渾良夫の靈が昆吾氏の廢墟にある「觀」(高樓)に登り、臣下の礼として北面し叫ぶのをみたということ。「被髮」はザンバラ頭。「髡髡」は瓜が初めて生えるさま。ここでは、瓜が生じ始めるように、小さなもの(太子だった以前の莊公)を大きなもの(衛の君主)にした功績が自分にあるのだから、自分に罪はないと訴えることを表す。「髡髡

瓜初生也。良夫善己有以小成大之功、若瓜之初生、謂使衛侯得國。」(杜預注) ○是年冬十一月、莊公為己氏所殺……卿の石圃が起こした内紛で国を追われ、逃げ込んだ戎州の己氏に殺されたことをいう(哀公十七年)。

【原文】

【本文】 烝鉏夢康叔、燕姑夢伯儵、

【自注】 左伝、衛襄公夫人無子、嬖人嬀始生孟縶、烝鉏夢康

叔謂己曰、立元、余使汝之曾孫圉与史苟相之、史朝亦夢康叔謂己曰、余將命爾子苟与孔烝鉏之曾孫圉相元、史朝見成子告之夢、夢協、元尚未生也、後嬀始又生子曰元、孟縶之足不良、弱行、孔成子筮之乃立元、是為靈公、注、烝鉏孔成子名也、

史記、衛襄公有賤妾、幸之、有娠、夢有人謂曰、我康叔也、今若子必有衛、名爾子曰元、妾怪之、問孔成子、成子曰、康叔者、衛祖也、及生子、男也、名曰元、是為靈公、

僖公三十一年、衛成公亦夢康叔、詳左伝、茲不及載、左伝、鄭文公賤妾曰燕姑、夢天使与己蘭曰、余為伯儵、而祖也、以是為而子、蘭有国香、既而文公見之、与之蘭而御之、姑曰、妾不才、幸而有子、將不信、

敢徵蘭乎、公曰、諾、生穆公、名之曰蘭、

【校異】

① 帛本是「始」に作るが、芸本、『左伝』共に「始」とするのに従い改めた。

② 芸本は、「爾」を「而」に作る。

③ 帛本は「周始」とするが、芸本と『左伝』に従い「嬀始」に改めた。

④ 芸本は、「娠」を「身」に作る。

⑤ 芸本は、「名」の下に「之」を付す。

⑥ 芸本は、「鄭文公」の下に「有」を付す。

⑦ 芸本は、「姑」を「燕姑」に作る。

【書き下し文】

【本文】 烝鉏は康叔を夢み、燕姑は伯儵を夢む。

【自注】 『左伝』(昭公七年伝)、衛の襄公夫人 子なし。

嬖人の嬀始 孟縶を生む。烝鉏(孔成子) 康叔(衛の始祖)の己に謂いて「元を立てよ。余、汝の曾孫圉と史苟とをして之を相けしめん」と曰うを夢む。史朝も亦た康叔 己に謂いて「余、將に爾が子の苟と孔烝鉏の曾孫圉とに命じて元を相けしめんとす」と曰うを夢む。史朝 成子を見て之に夢を告げ、夢協う

も、元は尚お未だ生まれざるなり。後に嫫始又た子を生み元と曰う。孟縶の足良ろしからず、弱行なり。孔成子之を筮して乃ち元を立つ。是れ靈公たり。

〔杜預〕注、烝鉏は孔成子の名なり。(注61)

『史記』〔衛康叔世家〕、衛の襄公に賤妾あり。之を幸し、娠むことあり。夢に人ありて謂いて曰く、「我は康叔なり。今若の子必ず衛を有つ。爾の子を名づけて「元」と曰わん」と。妾之を怪しみて、孔成子に問う。成子曰く、「康叔は、衛の祖なり」と。子を生むに及び、男なり。名づけて元と曰う。是れ靈公たり。(注62)

僖公三十一年、衛の成公も亦た康叔を夢む。『左伝』に詳し。茲に載せるに及ばず。(注63)

『左伝』〔宣公三年伝〕、鄭の文公の賤妾 燕姑と曰う。夢に天の使い己に蘭を与えて曰く、「余は伯儵たり。而の祖なり。是を以て而の子となさん。蘭に国香あり」と。既にして文公之を見て、之に蘭を与えて之を御す。姑曰く、「妾は不才なるも、幸いにして子あり。將し信ぜざれば、敢えて蘭を徴とせんか」と。公曰く、「諾」と。穆公を生み、之に名づけて蘭と曰う。(注64)

#### 【現代語訳】

烝鉏は〔衛の始祖である〕康叔を夢にみて、燕姑は〔南燕の始祖である〕伯儵を夢にみた。(次節に続く)

#### 【語注】

○烝鉏夢康叔、燕姑夢伯儵……ともに、始祖を夢にみる事例。○烝鉏夢康叔謂己曰、余將命爾子苟、与孔烝鉏之曾孫圍、相元……前篇衆占篇「衛史朝曰、筮襲於夢、武王所用」節を参照。○史朝見成子告之夢、夢協……「協」は合致する。「協、合。」〔尚書〕堯典「百姓昭明、協和万邦」(偽孔伝) ○僖公三十一年、衛成公亦夢康叔、詳左伝、茲不及載……衛の成公の夢に始祖である康叔が現れた夢。康叔は自分への供物が相(夏后啓の孫)に取られていると告げる。しかし甯武子は、本来夏の土地である帝丘は夏の後裔(杞や鄆)が祀るべきなのだから、衛が相を祀る必要はないとする。○鄭文公賤妾曰燕姑、夢天使与己蘭曰、余為伯儵、而祖也……姑は南燕の姓で、伯儵は南燕の祖。○既而文公見之、与之蘭而御之、姑曰、妾不才、幸而有子、將不信、敢徴蘭乎……夢をみて間もなく、燕姑は彼女を見初めた文公から蘭を与えられる。その後懐妊したが、文公が信じないことのないよう、賜った蘭を〔妊娠の月数を教えるための〕証拠にしたとい

うこと。「懼將不見信、故欲計所賜蘭為懷子月數。」(杜預注)

【原文】

【本文】 曹人夢振鐸、鄭人夢伯有、

【自注】 左伝、宋人圉曹、初、曹人或夢、衆君子立於社宮、

而謀亡曹、曹叔振鐸請待公孫強、許之、且而求之曹、無公孫強也、戒其子曰、我死、爾聞公孫強為政、必去之、及曹伯陽即位、好田弋、曹鄙人公孫強好弋、獲白鴈獻之、且言田弋之法悅之、因訪政事、大悅之、使為司城以聽政、夢者之子乃行、曹伯從強、計背晋而奸宋、宋人伐曹、晋師不救、遂滅曹、執曹伯及司城強以歸、

左伝、鄭人相驚、以伯有為厲、或夢伯有介而行、曰壬子、余將殺帶也、明年壬寅、余又將殺段也、及壬子、駟帶卒、壬寅、公孫段卒、国人愈懼、子産立孔子、子産洩及伯有之子良止、伯有乃不為厲、

【校異】

①芸本は、「子産」の下に「乃」を付す。

【書き下し文】

【本文】 曹人は振鐸を夢み、鄭人は伯有を夢む。

【自注】 『左伝』(「哀公七年伝」)、宋人 曹を圉む。初め、曹

人の或るひと夢む。衆君子 社宮に立ちて、曹を亡ぼさんことを謀る。曹叔振鐸 公孫強を待たんとことを請い、之を許す。且にして之を曹に求むるも、公孫強なきなり。其の子を戒めて曰く、「我死して、爾公孫強の政をなすと聞かば、必ず之を去れ」と。曹の伯陽位に即くに及び、田弋を好む。曹の鄙人公孫強は、弋を好む。白鴈を獲て之を獻じ、且つ田弋の法を言えば之を悦ぶ。因りて政事を訪い、大いに之を悦び、司城となして以て政を聴かしむ。夢みし者の子乃ち行る。曹伯強に従い、晋に背きて宋を奸すを計る。宋人 曹を伐つも、晋師救わず。遂に曹を滅ぼし、曹伯及び司城の強を執らえて以て歸る。

(注65)

『左伝』(「昭公七年伝」)、鄭人 相い驚かすに、伯有を以て厲となす。或るひと 伯有の介して行き、「壬子、余將に帶を殺さんとするなり。明年壬寅、余又た將に段を殺さんとするなり」と曰うを夢む。壬子に及び、駟帶 卒す。壬寅、公孫段 卒す。国人 愈懼る。子産 子孔の子公孫洩及び伯有の子良止



を立つるに、伯有乃ち厲をなさず。(注66)

【現代語訳】

曹人は〔曹の始祖である〕振鐸を夢にみて、鄭人は伯有を夢にみた。(次節に続く)

【語注】

○鄭人相驚、以伯有為厲く明年壬寅、余又将殺段也……伯有は、鄭人に殺された鄭の大夫、良霄りやうしやうのこと(襄公三十年経「鄭人殺良霄」)。鄭人の夢に甲冑姿で現れ、自身の殺害を主導した大夫の駟帯と公孫段を崇る夢。「介」はよろいで武装すること「介、甲也。」(杜預注)○初曹人或夢衆君子立於社宮、而謀亡曹く且而求之曹、無公孫強也……大勢の君子が曹を滅ぼす話をしていたところ、曹の始祖である曹叔振鐸が「公孫強が来るまで待つてほしい」と頼み、それが許された夢。○田弋……狩り。「田、謂四時田時。弋、謂弋鳧与雁。」(『周礼』夏官・司弓矢「田弋、充籠箠矢、共矰矢」賈公彦疏)飛んでいる鳥を捕らえるための矢を「弋」という。

【原文】

【本文】趙盾夢叔帶、荀偃夢巫臯、史記、趙盾夢見叔帶持要而哭、而又甚悲、已而笑、拊手且歌、盾卜之、兆、絶而後好、趙史援占之曰、此夢甚惡、非君之身、乃君之子、其後、果有屠岸賈之禍、

左伝、中行献子将伐齊、夢与厲公訟弗勝、公以戈擊之、首墜於前、跪而戴之、奉之以走、見梗陽人巫臯、他日、見巫臯於道、与之言同、巫曰、茲主必死、若有事於東方、則可以逞、献子乃沈玉禱河、会諸侯伐齊、齊師遁、明年春、献子瘕疽而卒、

【校異】

- ① 芸本は、「哭而又甚悲」を「哭甚悲」とする
- ② 帰本は「興」に作るが、ここでは芸本と『左伝』に従い「行」に改めた。
- ③ 帰本と芸本は「瘕」に作る。ここでは『左伝』に従い「瘕」に改めた。

【書き下し文】

【本文】趙盾は叔帶を夢み、荀偃は巫臯を夢む。

【自注】『史記』(趙世家)、趙盾 夢に叔帶 要じを持して哭し、而して又た甚だ悲しく、已にして笑い、手を拊

ちて且つ歌うを見る。盾之をトし、「兆、絶えて後に好し」と。趙史援之を占いて曰く、「此の夢甚だ悪し。君の身に非ずんば、乃ち君の子なり」と。其の後、果して屠岸賈の禍あり。(注67)

『左伝』(襄公十八年・十九年伝)、「晋の」中行献子將に斉を伐たんとす。夢に厲公を訟えて勝たず。公戈を以て之を撃ち、首前に墜つ。跪きて之を戴き、之を奉じて以て走り、梗陽の人巫臯を見る。他日、巫臯を道に見、之と尋うに同じ。巫曰く、「茲れ主必ず死せん。若し東方に事あらば、則ち以て違しくすべし」と。献子乃ち玉を沈めて河に禱り、諸侯に会し斉を伐つ。斉師遁る。明年春、献子瘡疽ありて卒す。(注68)

### 【現代語訳】

趙盾は(先祖の)叔帯を夢にみて、苟偃は巫臯を夢にみた。(次節に続く)

### 【語注】

○趙盾夢見叔帯持要而哭、而又甚悲、已而笑、拊手且歌……叔帯が腰に手をあてて激しく泣き、しばらくしてから手を打ち笑い歌う夢。叔帯は、趙の造父七世の子孫。

周を去り晋の文公に仕える。「自造父已下六世至奄父、……奄父生叔帯。叔帯之時、周幽王無道、去周如晋、事晋文侯、始建趙氏于晋国。」(『史記』趙世家)○兆、絶而後好く此夢甚悪、非君之身、乃君之子、其後果有屠岸賈之禍……「兆」は龜卜による割れ目。「絶而後好」は、一族が絶えるものの、後にまた繁栄するということ。「絶、家絶也。好、栄也。」(瀧川龜太郎『史記会注考証』趙世家)ここでいう「絶」は、趙盾の死後、趙氏誅滅を狙う屠岸賈が、晋の靈公弑殺時における趙盾の対応(国外にあり、賊を討たなかったこと)を咎め、趙氏一族の誅殺を行ったことによるもの。○夢与厲公訟弗勝、公以戈擊之、首墜於前く若有事於東方、則可以違……晋の苟偃(中行献子)が斉を討伐する際にみた夢。苟偃は、自身が弑殺した厲公と言い争いをして負け、公に切り落とされた頸を持つて走り巫臯と会う夢をみる。巫臯もまた同様の夢をみており、苟偃の死を予言する。「違」は思い通りにふるまうこと。ここでは思いきって斉との戦争に臨むことをいう。「巫知献子有死徵。故勸使快意伐斉。」(杜預注)、「違、快也。」(『左伝』桓公六年伝「今民饑而君違欲」杜預注)○梗陽……現在の山西省太原市清徐県。○沈玉溇河……戦地に赴く苟偃が黄河を渡る際、黄河の神に玉を捧げ、自らの死を覚悟して斉の討伐を誓ったこと

をいう。○瘡疽……悪性の腫瘍。「瘡疽、悪創。」（杜預注）

【原文】

本文 魏顆夢老人、韓厥夢其父、

〔自注〕 左伝、晋魏顆敗秦師於輔氏、獲杜回、秦之有力人也、

初、魏武子嬖有嬖妾、無子、嬖疾、命子顆曰、必嫁、疾甚則曰、必以殉、嬖卒、顆從治命嫁之、及輔氏之役、顆見老人結草以充杜回、杜回躡而顛、故獲之、

夜夢結草老人、曰、余乃而所嫁婦人之父也、爾用先人之治命、余是以報、

左伝、晋師及齊侯戰於鞍、齊師敗績、初、晋司馬韓厥夢其父子與謂己曰、且避左右、故韓厥中御而從齊侯、齊侯聞韓厥君子也、乃射韓厥之左右、皆仆而韓厥独免、

【校異】

①芸本は、「於」を「于」に作る。

②帰本と芸本共に「且」に作るが、ここでは『左伝』に従い「且」に改めた。

③帰本は「遇卻克中軍遂齊侯」とし、芸本は「遇」を「御」

に作る。ここでは『左伝』従い「中御而從齊侯」に改めた。

【書き下し文】

本文 魏顆は老人を夢み、韓厥は其の父を夢む。

〔自注〕 『左伝』（宣公十五年伝）、晋の魏顆 秦の師を輔氏

に敗り、杜回を獲たり。秦の力ある人なり。初め、魏武子嬖に嬖妾あるも、子なし。嬖疾。子に命じて曰く、「必ず嫁せしめよ」と。疾甚しければ則ち曰く、「必ず以て殉せしめよ」と。嬖卒す。

顆 治命に従い之を嫁せしむ。輔氏の役に及び、顆 老人の草を結びて以て杜回を充るを見る。杜回 躡きて顛る。故に之を獲たり。夜 草を結びし老人を夢む。曰く、「余は乃ち而の嫁せしめし所の婦人の父なり。爾は先人の治命を用いたり。余 是を以て報ゆ」と。（注69）

『左伝』（成公二年伝）、晋師及び齊侯 鞍に戦い、齊師 敗績す。初め、晋の司馬韓厥 其の父子與を夢む。己に謂いて曰く、「且左右を避けよ」と。故に韓厥 中御して齊侯に従う。齊侯 韓厥の君子なるを聞き、乃ち韓厥の左右を射る。みな仆れて韓厥独り免る。（注70）

【現代語訳】

魏顛は老人を夢みて、韓厥は自分の父を夢にみた。(次節に続く)

【語注】

○魏武子孿有嬖妾、無子、孿疾、命子顛曰、必嫁、疾甚、則曰、必以殉……魏顛の父である魏武子(魏孿)は、発病時こそ愛妾を(自身の死後に)再嫁させるよう命じたものの、病が重くなると自身に殉死させるよう命じたこと。○治命……精神が正常な時に出す命令。対して、重症の中「必ず以て殉せよ」と命じた魏武子のように、精神状態の乱れた時に出す命令は「乱命」。○晋司馬韓厥夢其父子輿謂己曰、且避左右、齊侯聞韓厥君子也、乃射韓厥之左右、皆仆而韓厥独免……晋の韓厥が斉との開戦前にみた夢。父の子輿から車の左右両端に乗るなど夢の中で告げられた韓厥は、戦闘時に車の中央に御して死を免れる。

【原文】

本文 穆子遇庚宗之婦、僖子納泉丘之女、

【自注】

左伝、叔孫穆子避僑如之難、奔齊、及庚宗、遇婦人宿焉、穆子至齊娶國氏、生孟丙・仲壬、夢天庠己弗勝、顧、見人黑而上僂、深目而顴、号之曰牛助余、乃勝之、後、魯人召穆子、婦立為卿、所宿庚宗婦人、獻以雉、其子奉雉以從、則昔所夢人也、又其名曰牛、遂使為豎牛、豎牛長使為政、乃讒殺孟丙、遂仲壬、而穆子病、為豎牛所饑以死、占曰、夢天庠己、君龍臨也、天不可勝、勝天不祥、左伝、孟僖子会邾莊公盟於祿禚、泉丘人有女、夢以其帷幕孟氏之廟、其女遂奔僖子、僖子使助副妾遠氏之簞、乃生懿子及南宮敬叔、

【校異】

- ① 帰本は「啄」に作る。ここでは芸本、『左伝』に従い「喙」に改めた。
- ② 芸本は、「遂使為豎牛」を「遂使為豎、謂之豎牛」とする。
- ③ 芸本は、「饑」を「餓」に作る。
- ④ 帰本は字潰れで判読不可のため、芸本に従い「寵」とした。
- ⑤ 帰本は字潰れで判読不可のため、芸本に従い「勝勝」とした。

⑥ 帰本は「令」に作るが、ここでは芸本、『左伝』に従い「会」に改めた。

⑦ 帰本は「子」に作るが、ここでは芸本、『左伝』に従い「公」に改めた。

⑧ 帰本は「子」に作るが、ここでは芸本、『左伝』に従い「氏」に改めた。

⑨ 帰本は「妾副」とするが、ここでは芸本、『左伝』杜預注に従い「副妾」に改めた。

【書き下し文】

【本文】 穆子は庚宗の婦に遇い、僖子は泉丘の女を納る。

【自注】 『左伝』〔昭公四年伝〕、叔孫穆子 僑如の難を避け、齊に奔る。庚宗に及び、婦人に遇い宿す。穆氏 齊に至り 国氏に娶り、孟丙・仲壬を生む。夢に天 己を圧して勝たず。顧みるに、人の黒くして上僂、深目にして猥喙なるを見る。之を号びて「牛 余を助けよ」と曰えば、乃ち之に勝てり。後、魯人 穆子を召し、帰りに立ち卿となる。宿せし所の庚宗の婦人、献ずるに雉を以てす。其の子 雉を奉じて以て従えば、則ち昔夢みし所の人なり。又た其の名を牛と曰い、遂に豎牛たらしむ。豎牛長じて 政をなさしむれば、乃ち讒して孟丙を殺し、仲壬を逐う。而し

て穆子病めば、豎牛の饑えて以て死す所となる。〔注〕  
〔陳士元注〕 占に曰く、「天の己を圧するを夢みるは、君 寵臨せらるるなり。天は勝つべからず。天に勝つは不祥なり」と。

『左伝』〔昭公十一年伝〕、孟僖子 邾の莊公に会して 祿祥に盟う。泉丘の人に女あり。其の帷を以て孟氏 の廟を幕を夢む。其の女 遂に僖子に奔り、僖子 副妾 遠氏の箴を助けしむ。乃ち懿子及び南宮敬叔を生む。〔注〕

【現代語訳】

叔孫穆子は、庚宗の地で婦人と遇い、孟僖子は泉丘（の人の）娘を迎え入れた。（次節に続く）

【語注】

○黒而上僂、深目而猥喙……顔が黒く、背中が曲がって肩が前に突出し、目が落ちくぼんで牡豚のような口をしている。「僂」は背中の骨が盛り上がったさま。「猥」は牡豚。○僖子使副妾 遠氏之箴……「箴」は補佐。そえ。「箴、副妾也。遠氏之女為僖子副妾、別居在外、故僖子納泉丘人女、令副助之。」（杜預注）

【原文】

【本文】 以至裸童・二豎・天使・河伯之名、罔不紛陳錯綴、

左伝昭公三十一年十二月、辛亥、朔、日食、是夜、

趙簡子夢童子裸而転以歌、且占諸史墨、曰、吾夢如

是、今而日食何也、対曰、六年及此月也、吳其入郢

乎、終亦弗克、入郢必以庚辰、日月在辰尾、庚午之

日、日始有謫、火勝金、故弗克、

左伝、晋景侯夢大厲、被髮及地、搏膺而踊、曰、殺

余孫不義、余得請於帝矣、壞大門及寢門而入、公懼

入於室、又壞戸、公覺、召桑田巫、巫言如夢、公曰、

如何、曰、不食新矣、公疾、病、求医於秦、秦伯使

医緩行、未至、公夢、疾為二豎子曰、彼良医也、懼

傷我、其一曰、居膏之上、膏之下、若我何、医至曰、君

疾在膏之上、膏之下、不可為也、公使甸人猷新表、

召桑田巫、示而將殺之、未及食如廁、陷於廁而卒、

左伝、晋趙嬰通於趙莊姬、莊姬趙朔妻、嬰之姪婦也、

明年春、嬰兄原与屏放嬰於齊、嬰夢天使、謂己曰、

祭余、余福汝、嬰使問士貞伯、貞伯曰、不識也、既

而告其人曰、神福仁而禍淫、淫而無罰、福也、祭其

得亡乎、嬰祭之、明日而亡、

左伝、楚与晋戰、楚令尹子玉自為瓊弁玉纓未之服也、

先戰、夢河神、謂己曰、畀余、賜女孟諸之麋、

【校異】

① 帰本は字潰れで判読不可のため、芸本に従い「裸」とした。

② 帰本は「一」に作るが、ここでは芸本と『左伝』に従い「二」に改めた。

③ 帰本は「搏」に作る。ここでは芸本と『左伝』に従い「搏」に改めた。

④ 帰本では、「得」と「請」の間が空格となっている。ここでは芸本に従う。

⑤ 芸本は、「於」を「于」に作る。

⑥ 帰本は「室」に作る。ここでは、芸本と『左伝』に従い「戸」に改めた。

⑦ 芸本は、「新」の下に「表」を付す。

⑧ 芸本は、「君疾」を「疾」とする。

⑨ 芸本は、「女」を「汝」に作る。

⑩ 芸本に従い「麋」の字を補った。

【書き下し文】

【本文】 以て裸童・二豎・天使・河伯の名に至りては、紛陳錯綴せざるなし。

【自注】

『左伝』昭公三十一年十二月、辛亥、朔、日食す。是の夜、趙簡子童子裸にして転び以て歌うを夢む。旦に諸を史墨に占わしむ。曰く、「吾が夢是くの如し。今にして日食するは何ぞや」と。対えて曰く、「六年して此の月に及べば、呉其れ郢に入らんか。終にして亦た克たざらん。郢に入るは必ず庚辰を以てせん。日月は辰尾に在り。庚午の日に、日に始めて諦あり。火は金に勝つ、故に克たず」と。(注73)

『左伝』(成公十年伝)、晋の景侯、大厲、被髮地に及び、膺を搏ちて踊るを夢む。曰く、「余が孫を殺すは不義なり。余帝に請うことを得たり」と。大門及び寝門を壊して入る。公懼れて室に入るも、又た戸を壊す。公覚め、桑田の巫を召す。巫の言夢の如し。公曰く、「如何」と。曰く、「新を食らわざらん」と。公疾む。病なり。医を秦に求む。秦伯、医緩をして行かしむるも、未だ至らず。公夢む。疾二豎となりて曰く、「彼は良医なり。懼らくは我を傷つけん」と。其の一曰く、「盲の上、膏の下に居らば、我を若何せん」と。医至りて曰く、「君の疾は盲の上、膏の下に在り。為むべからざるなり」と。公甸人をして新麦を献ぜしむるに、桑田の巫を召し、示して將に之を殺さんとす。未だ食うに及

ばざるに廁に如き、廁に陥りて卒す。(注74)

『左伝』(成公五年伝)、晋の趙嬰、趙の莊姫に通ず。莊姫は趙朔の妻、嬰の姪婦なり。明年春、嬰の兄原と屏、嬰を齊に放つ。嬰、天の使いを夢む。己に謂いて曰く、「余を祭れ。余女に福せん」と。嬰、士貞伯に問わしむ。貞伯曰く、「識らざるなり」と。既にして其の人に告げて曰く、神は仁に福して淫に禍す。淫にして罰なきは、福なり。祭らば其れ亡ぐるを得んか」と。嬰、之を祭り、明日にして亡ぐ。(注75)

『左伝』(僖公二十八年伝)、楚と晋と戦う。楚の令尹子玉、自ら瓊弁玉纓を為るも未だ之を服さざりき。戦うに先んじ、河神を夢む。己に謂いて曰く、「余に昇えよ。女に孟諸の麋を賜わん」と。(注76)

【現代語訳】

そのうえ、裸童・二豎・天使・河伯の名に至っては、あちらこちらに集め述べられている。(次節に続く)

【語注】

○趙簡子夢童子裸而転以歌……「転」は転がりまわる。「転、婉転也。」(杜預注) ○六年及此月也、呉其入郢平、終亦弗克、入郢必以庚辰、日月在辰尾、庚午之日、日始

有謫、火勝金、故弗克……六年後の同月に呉が楚の郢に

攻め入るが、呉には勝てないということ。ここでは日食の発生した場所（辰尾）と「謫」（太陽の異変）の徴候が現れていた時期（庚午）、更に五行相克の關係から占断を行つてゐる。○晋景侯夢大厲、被髮及地、搏膺而踊曰、殺余孫不義、余得請於帝矣、壞大門及寢門而入……大きな惡靈がザンバラ髪を振り乱し、胸を叩いて踊りながら景公に襲いかかつてくる夢。○不食新矣……今年收穫の麦は食べられない（その前に死ぬ）ということ。○居盲之上、膏之下、若我何……「盲」は横隔膜の上、「膏」は心臓の下。治療が困難な場所。子供の姿をした病が、自分たちは膏盲に居るのだから、医者はどうすることもできないと話す夢。○甸人……田野を管理する官名。「甸人、主為公田者。」（杜預注）○姪婦……甥の妻。○既而告其人曰、神福仁而禍淫、淫而無罰、福也、祭其得亡乎、嬰祭之明日而亡……嬰齊が自身の姪婦と通じるといふ淫事を行いながら罰を受けていないことは福であり、また天を祭れば禍を避けられるということ。○瓊弁玉纒……馬のたてがみの前にかける玉飾りの冠と胸がい。○先戰夢河神謂己曰、毋余、賜女孟諸之藥……黄河の神が、玉飾りを自分に与えるよう子玉に告げる夢。「毋」は引き渡す。「藥」は、水と草の交わるみぎわ。「水草之交曰藥。」（杜

預注）

【原文】

【本文】而邑姜之夢虞、実述於博物之子産、

【自注】左伝、晋侯有疾、鄭伯使公孫僑聘晋、且問疾、子産

曰、当武王邑姜方娠太叔、夢帝謂己、余命而子曰虞、将与之唐、属諸參而、蕃育其子孫、虞生有文在其手、

曰虞、遂以命之、及成王滅唐、而封太叔焉、故參為晋星、晋侯聞子産之言曰、博物君子也、

【校異】

①芸本は、「虞」を「及」に作る。

\*芸本は、「己」の下に「曰」を付す。

【書き下し文】

【本文】而して邑姜の虞を夢みるは、実に博物の子産に述べらる。

【自注】

『左伝』（昭公元年伝）、晋侯疾あり。鄭伯公孫僑（子産）をして晋に聘し、且つ疾を問わしむ。子産曰く、「武王の邑姜方に太叔を娠まんとするに当り、帝己に「余而が子に命けて虞と曰わん。将に之に



唐を与え、諸を參に属して、其の子孫を蕃育せんとす」と謂うを夢む。虞生まるるに文あること其の手に在り、虞と曰う。遂に以て之に命く。成王の唐を滅すに及びて、太叔を封ず。故に參をば晋星となす」と。晋侯子産の言を聞きて曰く、「博物の君子なり」と。(注7)

### 【現代語訳】

そして邑姜が虞(という名を我が子に与えられる)夢をみたことは、実に博識の子産によって語られているのだ。(次節に続く)

### 【語釈】

○邑姜……武王の妃。○晋侯有疾、鄭伯使公孫僑聘晋、且問疾……鄭の子産が晋侯の病の原因を問われたことをいう。晋の卜人は、実沈(日月星辰の神)と台駘(山川の神)の祟りが原因だとするが、子産は邑姜のみた夢を挙げてこれを否定する。○夢帝謂己、余命而子曰虞、将与之唐……天帝が邑姜の子に「虞」の名と「唐」の地を与えると告げた夢。唐はもと帝嚳の子である実沈が參星を祀つたとされる地で、その末代が唐叔虞という人物。天帝はその名を邑姜の子に与えると告げた。「帝天取唐君

之名。」(杜預注)○及成王滅唐而封太叔焉、故參為晋星……「虞」の名を与えられた太叔虞は、後に成王が滅ぼした唐の地に封ぜられて晋の開祖となる。これにより、晋は參星とゆかりのある唐に開かれた国となり、參星は晋星となる。「賈逵曰、晋主祀參、參為晋星。」(『史記集解』鄭世家「故參為晋星」)

### 【原文】

【本文】 往代君子、覽而業之、垂及千載、豈皆習誕而承賈耶、

生曰、礼記諸篇、或雜漢語、左氏務博、未免浮夸、何足符信也、主人曰、汝以師心之識、錮其円神爾、

【自注】 孔子曰、猶師心者也、

### 【校異】

① 芸本は「邪」に作る。

② 芸本は「誇」に作る。

### 【書き下し文】

【本文】 往代の君子は、覽りて之を業とし、垂ること千載に及ぶ。豈にみな誕なるを習いて賈なるを承けんや」と。(宗空) 生曰く、「礼記諸篇、或いは漢語を雜

う。左氏は博きに務むるも、未だ浮夸を免れず。何ぞ符信するに足らんや」と。(通微) 主人曰く、「汝心を師とするの識を以て、其の円神を綱ぐのみ。

(次節に続く)

【自注】『莊子』人間世 孔子曰く、猶お心を師とする者のこととし。(注78)

【現代語訳】

歴代の君子は、占夢を取り上げて「自身の」務めとし、後世に伝えること長きにわたった。どうして「君子達が」みなでたらしめを習い、いつわりを受け入れるだろうか」と。宗空生が言った、『礼記』の諸篇には漢代の言葉が紛れ込んでいる。『左氏伝』は「夢をみたことについての記事が」広きに渉るよう務めているけれど、誇張が過ぎる現実的でない感を免れない。どうして信用するに足りようか」と。通微主人が言った、「あなたは自分の心(に固執した狭い見)で神妙なことを知るのを妨げているのだ。(次節に続く)

【語注】

○往代君子、覽而業之、垂及千載……君子(孔子や子産など)の言説により、夢の意義が後世に伝えられていく

ということ。○礼記諸篇、或雜漢語……『礼記』の編集過程で漢代儒者の説が混入したため、孔子や弟子達の言説を純粹に伝えるものではなくなっていることを指す。

○汝以師心之識、綱其円神爾……「師心之識」は、自身の心だけに従った認識。偏見。「師、猶師心也。夫物各師其成心、妄為偏執、將己為是、不知他以為非。」(『莊子』秋水「師是而非、師治而无乱乎」成玄英疏「師、順也。」)『釈文』「綱」は、ふさぐ。「円神」は、あらゆるところを窮まることなくめぐる神妙なはたらき。「著之徳円而神。」(『易』繫辭伝上)

【原文】

【本文】夫商周之書、小雅之詩、非聖人之所刪定者耶、高宗夢說、審象旁求、

【自注】商說命篇、王恭默思道、夢帝齋予良弼、乃審厥象、俾以形旁求於天下、說築傅巖之野、惟肖、爰立作相、置諸左右、

史記、武丁夜夢得聖人、名曰說、以夢所見、視群臣百吏皆非也、於是使百工宮求之野、得說於傅險中、舉以為相、

【校異】

① 芸本は、「耶」を「邪」に作る。

② 芸本は、「商」を「商書」とする。

③ 歸本は字潰れで判読不可のため、芸本に従い「巖」とした。

④ 芸本は、「諸」を「其」に作る。

【書き下し文】

【本文】 夫れ商周の書、小雅の詩、聖人の刪定する所のものに非ざるや。高宗は説を夢みて、象を審らかにし旁く求む。

【自注】 商「説命」篇、王恭しく黙して道を思う。帝予に良弼を齎すを夢む。乃ち厥の象を審らかにし、形を以て旁く天下に求めしむ。説傳巖の野に築く。惟れ肖たり。爰に立てて相と作し、諸を左右に置く。(注79)

『史記』(殷本紀)、武丁夜に聖人を得るを夢む。名は説と曰う。夢に見る所を以て、群臣百吏を見るもみな非なり。是に於いて百工をして之を野に営求せしめ、説を傳險の中に得、挙げて以て相となす。(注80)

【現代語訳】

商周の書、小雅の詩は聖人が刪定したものでないこと

があるうか。『尚書』商書では「高宗は傳説の夢をみると、[説の]姿をつまびらかにして方々に探し求めた」とある。(次節に続く)

【語注】

○夢帝齎予良弼、乃審厥象、俾以形旁求於天下、説築傳巖之野、惟肖、爰立作相……武丁が天から良弼(補佐となる良き臣下)を賜る夢。夢と同じ姿の人物を探した武丁は、傳巖で働く説を見つけ宰相に抜擢した。「傳巖」は傅氏の巖(山崖)。「伝、以傅為氏。此巖以傅為名、明巖傍有姓傅之民。故云傅氏之巖也」『尚書』商書・説命上「説築傳巖之野」孔穎達疏)。○傳險……「傳巖」に同じ。「旧本作「險」、亦作「巖」也。」『史記索隱』殷本紀「得説於傳險中」

【原文】

【本文】 武王誓師、朕夢協卜、

【自注】 解見第四篇、

【書き下し文】

【本文】 武王 師を誓むるに、「朕が夢卜に協う」と。

【自注】 解は第四篇に見る。

【現代語訳】

『尚書』周書では「武王は軍隊に号令を發するのに、「我が夢は卜に合致した」と言った。」（次節に続く）

【語注】

○解見第四篇……衆占篇第四「夢与兆易、豈有隆降乎」節の自注を参照。

【原文】

【本文】 而宣王築室考牧、有熊羆・虺蛇・衆魚・旃旗之夢、

【自注】 小雅斯干之詩曰、乃寢乃興、乃占我夢、吉夢維何、

維熊維羆、維虺維蛇、大人占之、維熊維羆、男子之祥、維虺維蛇、女子之祥、

無羊之詩曰、牧人乃夢、衆維魚矣、旃維旗矣、太人占之、衆維魚矣、寔維豊年、旃維旗矣、室家溱溱、

小序、斯干、宣王考室也、無羊、宣王考牧也、陳氏、室成而考之、故以人君之夢而言其祥、牧成而考之、故以牧人之夢而書其祥、

【校異】

① 歸本は、「小雅斯干、維熊維羆之詩註」としてその詳細を挙げていない。ここでは芸本により全文を補った。

② 歸本では、本文「衆魚」の自注部分が全て逸脱している。ここでは芸本に従い「無羊之詩曰……」を補った。

\* 芸本は、「小序」「陳氏」の下に、それぞれ「曰」を付す。

【書き下し】

【本文】 而して宣王は室を築き牧を考し、熊羆・虺蛇・衆魚・旃旗の夢あり。

【自注】

小雅斯干の詩に曰く、乃ち寢ね乃ち興き、乃ち我が夢を占う。吉夢 維れ何ぞ。維れ熊 維れ羆、維れ虺 維れ蛇、大人之を占う。維れ熊 維れ羆は、男子の祥、維れ虺 維れ蛇は、女子の祥。(注81)

無羊の詩に曰く、牧人乃ち夢む。衆 維れ魚、旃 維れ旗。太人 之を占う。衆 維れ魚は、寔に維れ豊年。

旃 維れ旗は、室家 溱溱たらん。(注82)

小序、斯干、宣王 室を考すなり。無羊、宣王 牧を考すなり。(注83)

陳氏、室成りて之を考す。故に人君の夢を以て其の祥を言う。牧成りて之を考す。故に牧人の夢を以て

して其の祥を書す。(注84)

【現代語訳】

そして『詩経』小雅では「宣王は宮室を築き牧官をたてており、熊羆・虺蛇・衆魚・旒旗の夢がある。(次節に続く)」

【語注】

○考牧……ここでは、宣王が一度廃れた牧官をたて、牧畜事業を再開させたことをいう。「厲王之時、牧人之職廢。宣王始興而復之。」(『詩経』小雅・無羊「宣王考牧」鄭箋)「考」は物事が成就する。「考、成也。」(『礼記』礼運「事行有考也」鄭玄注)○熊羆・虺蛇……吉祥とされるもの。「熊羆在山、陽之祥也。故為生男。虺蛇穴処、陰之祥也。故為生女。」(鄭箋)「羆」は、ひぐま。「長頭高脚、猛怒多力、能拔樹木。」(『爾雅』積獸「羆、如熊。黃白文」郭璞注)「虺」は、蛇の一種。まむしとも。「舍人曰、蝮、一名虺。……孫炎曰、……有牙、最毒。」(『爾雅』積魚「蝮虺」邢昺疏)○衆魚・旒旗……「衆魚」は、大勢で魚を捕ること。「旒」「旗」は九旗の種類。「旒」は亀と蛇を描いた旗。「龜蛇曰旒。」(『詩経』小雅・出車「設此旒矣」毛伝)「旗」は隼を描いた旗。「鳥隼曰旗。」

『詩経』小雅・出車「彼旒旒斯」毛伝)○牧人……牧畜をつかさどる官。「牧人、養牲於野田者。」(『周礼』地官「牧人下土六人」鄭玄注)○室家溱溱……子孫が多いさま。「溱溱、子孫衆多也。」(鄭箋)○室成而考之……宮殿を建築し、落成式を行うこと。「考之者、設盛食以落之。」(『礼記』雜記下「路寝成則考之」鄭玄注)

【原文】

【本文】又使太人占之、致其嚴重、未敢褻也、

【自注】斯干・無羊之夢、皆以太人占之、

朱子、太人太卜之属、占夢之官也、

孔氏、左伝文公之夢、子犯占之、不必占夢之官、乃得占也、

【校異】

① 帛本では、この部分が全て逸脱している。ここでは芸本に従い補った。

\* 芸本は、「朱子」「孔氏」の下に、それぞれ「曰」を付す。

【書き下し文】

**本文** 又た太人をして之を占わしむ。其の嚴重を致し、未だ敢えて褻らざるなり。

**自注** 斯干・無羊の夢は、みな太人を以て之を占う。(注85)

朱子、太人太トの属は、占夢の官なり。(注86)

孔氏、『左伝』文公の夢は、子犯之を占う。必ずしも占夢の官ならずとも、乃ち占うを得。(注87)

**【現代語訳】**

また〔宣王は〕太人にこれら〔熊羆・虺蛇・衆魚・旒旗の夢〕を占わせた。〔このように、夢を〕尊重し、決して軽んじることとはなかった。(次節に続く)

**【語注】**

○又使太人占之、致其嚴重、未敢褻也……「嚴重」は尊重すること。「褻」は、あなどる。「褻、息列反、慢也。」

〔『礼記』曲礼上「臨祭不惰」』『积文』〕○斯干・無羊之夢、皆以太人占之……○太人太ト之属、占夢之官也……

「太人」(または「大人」)は占夢の官、「太ト」(または「大ト」)は卜筮官の長官。「問亀曰ト。大ト、卜筮官之

長。」「『周礼』春官宗伯・序官「大ト」鄭玄注)○左伝、文公之夢、子犯占之……本篇「晋文夢楚子」節の自注を参照。

**【原文】**

**本文** 雖幽王之朝訛言莫懲、猶必召彼故老、訊之占夢、

**自注** 小雅正月詩、召彼故老、訊之占夢、

朱善、故老明於臧否、占夢明於吉凶、国之所頼以正訛者也、

**【校異】**

① 芸本は、「正月詩」を「正月之詩曰」とする。

② 帰本は「朱子」に作るが、前節の「朱子(朱熹)」とは異なる。引用は朱善『詩解頤』によるため「朱善」に改めた。

③ 帰本は「止」に作るが、ここでは芸本、『詩解頤』が「正」とするのに従い改めた。

**【書き下し文】**

**本文** 幽王之朝 訛言懲むことなしと雖も、猶お必ず彼の故老を召し、之に占夢を訊ぬ。

**自注** 小雅正月の詩、彼の故老を召し、之に占夢を訊ぬ。(注88)

朱善『詩解頤』、故老は臧否に明るく、占夢は吉凶に明るし。国之頼りて以て訛を正す所の者なり。

【現代語訳】

幽王の時代には、嘘がはびこり止むことがなかったとはいえ、やはり必ず故老を召して占夢を問うたのである。(次節に続く)

【語注】

○雖幽王之朝訛言莫懲、猶必召彼故老訊之占夢……『詩經』小雅・正月に「正月、大夫刺幽王也」(小序)、「小人以訛言相陷、王不能察其真偽」(憂心愈愈、是以有侮)孔穎達疏)とあり、虚言が横行していた幽王の統治を諷する詩とされる。本文からは、悪政下においても執り行われていた占夢の意義を確認する陳士元の意図が窺える。「故老」は元老のこと。

○朱善……字は備万、元末明初、豊城(今の江西省豊城)の人。明の洪武五年(一三七二年)の状元。その著書『詩解頤』は、詩における興・観・群・怨の意を明らかにしようとしたもの。○故老明於臧否、占夢明於吉凶、国之所頼以正訛者也……「正月」詩の解釈。国家の大事に関する「臧否」「吉凶」の判断も君主自ら行わず、「聖」と自称する故老や占夢に依存した結果、虚言が氾濫したこ

とを嘆くもの。「君臣在朝、侮慢元老、召之不問政事、但問占夢。不尚道德、而信徵祥之甚。」(鄭箋)ただし、陳士元の意図は「正月」詩の大意ではなく、王による占夢が執り行われていたという史実を示す点にあるため、典型的な断章取義と言える。

【原文】

【本文】 然則古人何嘗忽厥夢占哉、而緯裨所載、足用資挾、

胡可概以為寤而無弁也、

【自注】 韻海、掃、牛含切、寐語也、

【校異】

①芸本は、「何」を「曷」に作る。

\*芸本は、「韻海」の下に「曰」を付す。

【書き下し文】

【本文】 然らば則ち古人何ぞ嘗て厥の夢占を忽せにせんや。

而して緯裨の載する所は、用て資挾するに足る。胡ぞ概べて以て寤となして弁する無かるべけんや」と。

【自注】 『韻海』、寤は、牛含切。寐語なり。(注90)

【現代語訳】

そうであれば、古の人はどうしてその夢占をおろそかにするだろうか。緯書や稗書に書いてあることでも、選びとるに足るのである。どうして「緯書や稗書の言を」総べて寝言「のような取るに足らない言葉」として、語らないでおくことができようか。」

【語注】

○寐語……寝言。こゝでは戯言の意。

訳者注

- (1) 「雑占者、紀百事之象、候善惡之徵。易曰、占事知来。衆占非一、而夢為大。故周有其官。」(『漢書』芸文志)
- (2) 「円者星也。曆紀之數、其肇於此乎。方者土也。画州井地之法、其倣於此乎。蓋円者河図之數、方者洛書之文。故犧文因之而造易、禹箕敘之而作範也。」(邵雍『皇極經世書』卷十三 觀物外篇上)
- (3) 「河以通乾出天苞、洛以流坤吐地符。」(『春秋說題辭』)
- (4) 河図洛書を受けた「聖人」については諸説あり、必ずしも伏羲や禹に限られてはいないようである。「按中候握河紀、堯時、受河図龍銜、赤文綠色。」(『礼記』礼運「河出馬図」

孔穎達疏

- (5) 『皇極經世觀物外篇衍義』については、四庫全書珍本『皇極經世觀物外篇衍義』による。
- (6) 「王氏曰、人之精神与天地陰陽流通。故夢各以其類至。先王置官、觀天地之会、弁陰陽之氣、以日月星辰、占六夢之吉凶。献吉夢、贈惡夢。知此則可以言性命之理矣。」(呂祖謙『呂氏家塾說詩記』小雅・斯干)
- (7) 「夫占夢与占龜同。晋占夢者不見象指、猶周占龜者不見兆者為也。象無不然、兆無不審。人之知闇、論之失矣也。」(『論衡』卜筮篇)
- (8) 「大卜、掌三兆之法。一曰玉兆、二曰瓦兆、三曰原兆。其經兆之体、皆百有二十。其頌皆千有二百。」(『周礼』春官・大卜)
- (9) 「頌謂繇也。三法、体繇之數同。其名占異耳。百二十每体十繇。体有五色、又重之以墨垢也。五色者、洪範所謂曰雨、曰濟、曰圜、曰蠹、曰尅。」(『周礼』春官・大卜 鄭玄注)
- (10) 「掌三易之法。一曰連山、二曰歸藏、三曰周易。其經卦皆八、其別皆六十有四。」(『周礼』春官・大卜)
- (11) 「三易、卦別之數亦同。其名占異也。每卦八。別者重之數。」(『周礼』春官・大卜 鄭玄注)
- (12) 「掌三夢之法。一曰致夢、二曰觭夢、三曰咸陟。其經運十、其別九十。」(『周礼』春官・大卜)



(13) 「眡禋、掌十輝之法、以觀妖祥、弁吉凶。一曰禋、二曰象、三曰鑑、四曰監、五曰闡、六曰瞽、七曰弥、八曰叙、九曰躋、十曰想。」〔『周礼』春官·眡禋〕

(14) 「鄭司農云、輝謂日光氣也。」〔『周礼』春官·眡禋鄭玄注〕

(15) 「王者於天日也。夜有夢、則晝視日旁之氣、以占其吉凶。凡所占者十輝。每輝九變。此術今亡。」〔『周礼』春官·大卜鄭玄注〕

(16) 愈越は「運」を「數」と解している。「謹按、上文經兆即以三卜言、經卦即以三易言、此文經運宜亦以三夢言、乃以視禋之十輝当之、失其義矣。運當讀為員。莊子天運篇積文曰、司馬本作天員、是其証也。古運員声近。說文見部、覲、從見、員声、誑若運。然則、運之通作員、猶覲之誑若運矣。說文員部、員、物數也。漢書高惠高后功臣表、坐事國人過員、師古曰、員、數也。其經員十者、其經有數十也。三夢以員言、猶三卜以兆言、三易以卦言也。鄭注失之。」(俞樾『群經平議』周礼「其經運十、其別九十」)

(17) 「天其以予乂民。朕夢協朕卜、襲于休祥。戎商必克。」〔『尚書』周書·泰誓中〕

(18) 「言我夢与卜俱合於美善、以兵誅紂必克之占。」〔『尚書』周書·泰誓中、偽孔伝〕

(19) 「衛襄公夫人姜氏無子。嬖人嬀始生孟縶。孔成子夢康叔謂己、立元、余使羈之孫圉与史苟相之。史朝亦夢康叔謂己。

余將命而子苟与孔烝鉏之曾孫圉、相元、史朝見成子、告之夢、夢協。晉韓宣子為政、聘于諸侯之歲、嬀始生子、名之曰元。孟縶之足不良、能行。孔成子以周易筮之曰、元尚享衛國、主其社稷、遇屯誱。又曰、余尚立縶、尚克嘉之。遇屯誱之比誱。以示史朝。史朝曰、元亨、又何疑焉。成子曰、非長之謂乎。對曰、康叔名之、可謂長矣。孟非人也。將不列於宗、不可謂長。且其繇曰、利建侯。嗣吉、何建、建非嗣也。二卦皆云、子其建之、康叔命之、二卦告之。筮襲於夢、武王所用也。弗從何為。弱足者居、侯主社稷、臨祭祀、奉民人。事鬼神、從會朝。又焉得居、各以所利。不亦可乎。故孔成子立靈公。十二月、癸亥、葬衛襄公。」〔『左伝』昭公七年伝〕

(20) 「或曰、夢之有占何也。曰、人之精神与天地陰陽流通。故昼之所為、夜之所夢、其善惡吉凶、各以類至。是以先王建官設屬、使之觀天地之會、弁陰陽之氣、以日月星辰占六夢之吉凶。獻吉夢、贈惡夢。其於天人相与之際、察之詳而敬之至矣。」〔『詩集伝』小雅·斯干〕

(21) 「天人同流相応而不遠。先王立官、以觀妖祥、弁吉凶、所以和同天人之際、使之無間也。」(陳友仁『周礼集説』)

(22) 「一切有為法、如夢幻泡影、如露亦如電、応作如是觀。」〔『金剛般若波羅蜜経』〕

(23) 「黄帝」昼寢而夢遊於華胥氏之國。華胥氏之國在弇州之

西、台州之北、不知斯育國幾千万里。蓋非舟車足力之所及。神遊而已。其國無師長、自然而已。其民無嗜欲、自然而已。

……都無所畏懼、都無所畏忌。入水不溺、入火不熱。……

黃帝既寤、怡然自得、召天老·力牧·太山稽、告之曰、朕間居三月、齋心服形、思有以養身治物之道、弗獲其術、疲而睡、所夢若此、今知至道不可以情求矣。朕知之。朕得之。而不能以告若矣。又二十有八年天下大治。幾若華胥氏之國。」

〔列子〕黃帝

(24) 〔河圖挺佐輔〕曰、黃帝修德立義、天下大治、乃召天老而問焉。余夢見兩龍挺白圖、以授余於河之都、天老曰、河出龍圖、洛出龜書、紀帝錄、列聖人之姓號、興謀治太平。然後鳳凰處之。今鳳凰以下三百六十日矣。天其受帝圖乎。黃帝乃祓齋七日、至於翠鳩之川、大鱸魚折溜而至。乃与天老迎之。五色畢具、魚汎白圖蘭葉朱文、以授黃帝。名曰錄圖。」

〔藝文類聚〕卷十一 帝王部

(25) 〔帝王世紀〕云、黃帝夢大風吹、天下之塵垢皆去。又夢人執千鈞之弩、驅羊万群。帝寤而歎曰、風為号令、執政者也。垢去土、后在也。天下豈有姓風名后者哉。夫千鈞之弩、異力者也。驅羊万群、能牧民為善者也。天下豈有姓力名牧者哉。於是依二占而求之、得風后於海隅、登以為相。得力牧於大沢、進以為將。黃帝因著占夢經十一卷。〔史記正義〕五帝本紀

(26) 〔管夢捫天体。蕩蕩正青滑、有若鍾乳。后仰喻之。以訊占夢。言堯夢攀天而上、湯夢及天舐之。此皆聖王之夢。吉不可言。〕〔東觀漢記〕卷六

(27) 〔堯舜上聖符域內之休徵。〔注〕夢書曰、堯夢乘青龍上太山、舜夢擊鼓。〕〔白孔六帖〕卷三 夢部

(28) 〔始帝在唐、夢御龍以登雲天而有天下。〕〔羅泌〕路史卷二十一

(29) 〔帝王世紀〕曰……舜姚姓也。……年二十始以孝聞、堯以二女娥皇女英妻之、見舜於貳宮、設饗禮送為賓主、南面而問政、命為司徒太尉、試以五典有大功二十。夢眉長与髮等、堯乃賜舜以昭華之玉、老而命舜代己摺政。〔太平御覽〕卷八十一 天部

(30) 〔懷山不已、龍門未闢、大道御世、天下為公、感夢長人、明揚仄陋。〕〔溫侍詔集〕〔舜廟碑〕

(31) 〔禹乃登山仰天而嘯。因夢見赤繡衣男子、自称玄夷蒼水使者、聞帝使文命于斯、故來候之非厥歲月將告以期無為戲吟。故倚歌覆釜之山。東顧謂禹曰、欲得我山神書者、齋於黃帝巖嶽之下、三月庚子登山、發石、金簡之書存矣。禹退又齋。三月庚子、登宛委山發金簡之書。案金簡玉字得通水之理。復返歸嶽乘四載、以行川始於霍山。……遂巡行四瀆与益夔共謀行到名山大沢、召其神而問之、山川脈理、金玉所有、鳥獸昆虫之類、及八方之民俗、殊國異域、土地里數、使益

疏而記之。故名之曰山海經。」(『吳越春秋』卷四 越王無余外伝)

(32) 「帝王世紀曰……禹未登用之時，父既降在匹庶，有聖德。夢自洗於河，觀於河，始受圖，括地象也。圖言治水之意。」

『太平御覽』卷八二 皇王部

(33) 「夏禹未遇、夢乘舟月中過。」(『白孔六帖』卷一 月部)

(34) 「桀紂下臨，作寰中之不軌。」(注) 桀帝夢黑風破其宮，紂

帝夢大雷擊其首。」(『白孔六帖』卷二三 夢部)

(35) 「帝王世紀曰……唐始文王繼父為西伯，都于雍州之地、及受命復兼梁荆二州，化被于江漢之域。於是諸侯附之者六州、

而文王不失臣節。先是文王夢日月之光著身，又鸞鷲鳴於岐，作武象之樂。」(『太平御覽』卷八四 皇王部)

(36) 「文王觀於臧，見一丈夫釣，而其釣莫釣。非持其釣有釣者也，常釣也。文王欲舉而授之政，而恐大臣父兄之弗安也。

欲終而積之，而不忍百姓之无天也。於是旦而厲之大夫曰、昔者寡人夢見良人，黑色而髯，乘駿馬而偏朱蹄。号曰、禹而政於臧丈人。庶幾乎民有瘳乎。」(『莊子』田子方)

(37) 「太公為灌壇令。武王夢婦人当道夜哭，問之曰、吾是東海神女，嫁於西海神童。今灌壇令当道，廢我行。我行必有大風雨。而太公有德，吾不敢以暴風雨過是毀君德。武王明日召太公，三日三夜，果有疾風暴雨，從太公邑外過。」(『博物志』卷八)

(38) 「太公釣於磻溪。夜夢北斗神，告以伐紂之意。尚書中候」(『廣博物志』卷二)

(39) 「孔子窮乎陳蔡之間，藜羹不斟，七日不嘗粒，昼寢。顏回索米，得而爨之，幾熟。孔子望見顏回攫其甑中而食之。選

間，食熟，謁孔子而進食。孔子佯為不見之。孔子起曰、今者夢見先君，食潔而後饋。顏回對曰、不可。嚮者煤室入甑中，棄食不祥，回攫而飯之。孔子歎曰、所信者目也，而目猶不可信。所恃者心也，而心猶不足恃。弟子記之，知人固不易矣。故知非難也。孔子之所以知人難也。」(『呂氏春秋』審分覽)

(40) 「孝經右契曰、孔子夜夢豐沛邦有赤煙氣。起顏回·子夏侶往觀之。驅車到楚西北范氏之廟，見芻兒捶麟，傷其前左足，束薪而覆之。孔子曰、兒，汝來姓為誰。兒曰、吾姓為赤松子。孔子曰、汝豈有所見乎。曰、吾所見一獸，如麝羊頭、頭上有角，其末有肉方。以是西走。孔子發薪下，麟視孔子而蒙其耳，吐三卷書。孔子精而讀之。」(『太平御覽』卷八八 九 獸部)

(41) 「魯公十四年，孔子夜夢三槐之間，豐沛之邦有赤煙氣起。驅車，見芻兒傷麟之左足，求薪覆之。」(『宋書』卷二七符瑞上)

(42) 「漢高祖，名季，父名執嘉。母曰、合始入池中浴，見玉鸞銜赤珠，名曰玉英吞之有孕。昔孔子夢三槐間，豐沛邦有赤

蛇、化為黃玉。上有文曰、卯金刀字。」(『金樓子』卷一)

(43)「黃帝時、有大星如虹。下流華渚。女節夢接之意感、遂生少昊。」(『芸文類聚』卷十 符命部)

(44)「文王去商、在程。正月、既生魄、太姒夢見商之庭產棘、小子發取周庭之梓、樹于闕間、化為松柏楫柞。寤驚以告文王。文王乃召太子發、占之于明堂、王及太子發並拜吉夢、受商之大命于皇天上帝。」(『逸周書』程寤解)

(45)「伊尹且生之時、其母夢人謂己曰、白出水疾東走、毋顧。明且、視白出水、即東走十里。顧其鄉、皆為水矣。」(『論衡』吉驗篇) 同「白の水を出だす」夢は『呂氏春秋』にも見える。「有仇氏女子採桑、得嬰兒于空桑之中、獻之其君。其君令婦人養之。察其所以然曰、其母居伊水之上、孕、夢有神告之曰、白出水而東走、毋顧。明日視白出水、告其隣、東走十里、而顧其邑、盡為水、身因化為空桑。」(『呂氏春秋』本味篇)

(46)「孔演曰曰、孔子母徵在遊大沢之陂睡。夢黑帝使請己。已往、夢交語曰、汝乳必於空桑之中。覺則若感。生丘於空桑中。」(『太平御覽』卷三六一 人事部二)

(47)「周靈王二十一年、孔子生於魯襄公之世也。生之夜、有二蒼龍亘天下、來附徵在之房、因夢生夫子、有二神女擎香露於空中而來沐浴徵在、太常下奏鈞天樂、有五老列於庭、乃五星也。夫子生時、有麟吐玉書於里人家。云、水精子之

子、系周衰而素王。」(『寶積記』)

(48)「侍詔夏賀良等言赤精子之讖、漢家曆運中衰、當再受命、宜改元易号。詔曰、漢興二百載、曆數開元。皇天降非材之佑、漢國再獲受命之符、朕之不德、曷敢不通。夫基事之元命、必与天下自新、其大赦天下。以建平二年為太初元將元年。」(『漢書』哀帝紀)「諸以材技徵召、未有正官、故曰待詔。夏、姓也。賀良、名也。高祖感赤龍而生、自謂赤帝之精、良等因是作此讖文。」(『忠勳注』)

(49)「小説家者流、蓋出於稗官。街談巷語、道聽塗說者之所造也。孔子曰、雖小道、必有可觀者焉、致遠恐泥、是以君子弗為也。然亦弗滅也。閭里小知者之所及、亦使綴而不忘。如或一言可采、此亦芻蕘狂夫之議也。」(『漢書』芸文志)「九章、細米為稗。街談巷說、其細碎之言也。王者欲知閭巷風俗、故立稗官使稱說之。」(如淳注)

(50)「文王謂武王曰、女何夢矣。武王對曰、夢帝与我九齡。文王曰、女以為何也。武王曰、西方有九國焉、君王其終撫諸。文王曰、非也。古者謂年齡、齒亦齡也。我百、爾九十、吾与爾三焉。文王九十七乃終、武王九十三而終。」(『禮記』文王世子)

(51)「夫子殆將病也。遂趨而入。夫子曰、賜、爾來何遲也。夏后氏殯於東階之上、則猶在阼也。殷人殯於兩楹之間、則与賓主夾之也。周人殯於西階之上、則猶賓之也。而丘也殷人

也。予疇昔之夜、夢坐奠於兩楹之間。夫明王不興、而天下其孰能宗予。予殆將死也。蓋寢疾七日而沒。」〔《禮記》檀弓上〕

(52) 「鄭子產聘于晉。晉侯疾。韓宣子逆客、私焉。曰、寡君寢疾。於今三月矣。並走群望。有加而無瘳。今夢黃熊入于寢門。其何厲鬼也。對曰、以君之明、子為大政。其何厲之有。昔堯殛鯀于羽山。其神化為黃熊、以入于羽淵、實為夏郊、三代祀之。晉為盟主、其或者未之祀也乎。韓子祀夏郊祀鯀、晉侯有間。」〔《左傳》昭公七年傳〕

(53) 「宋景公無子、取公孫周之子得與啓、畜諸公宮。未有立焉。於是皇緩為右師、皇非我為大司馬、皇懷為司徒。……冬十月、公游于空沢。辛巳、卒于連中。……大尹立啓、奉喪殯于大宮。三日而後國人知之。司城伐使宣言于國曰、大尹惑蠱其君而專其利、令君無疾而死。死又匿之。是無他矣。大尹之罪也。得夢啓北首而寢於盧門之外、己為鳥〔校勘記「鳥」而集於其上、喙加於南門、尾加於桐門、曰、余夢美、必立。〕」〔《左傳》哀公二十六年傳〕

(54) 「帝堯之時、……堯求能治水者、……帝堯乃求人、更得舜。舜登用、拱行天子之政、巡狩。行視鯀之治水無狀、乃殛鯀於羽山以死。天下皆以舜之誅為是。於是舜舉鯀子禹、而使統鯀之業。」〔《史記》夏本紀〕

(55) 「晉侯將伐鄭。……鄭人聞有晉師、使告于楚。……呂錡夢

射月中之、退入於泥。占之曰、姬姓日也、異姓月也、必楚王也。射而中之、退入於泥、亦必死矣。及戰、射共王目中、王召襄由基。與之兩矢、使射呂錡、中項伏弋、以一矢復命。卻至三遇楚子之卒、見楚子必下、免胄而趨風、楚子使工尹襄、問之以弓。曰、方事之殷也。有秣韋之附注、君子也。」

〔《左傳》成公十六年傳〕

(56) 「初、声伯夢涉洹、或与之瓊瑰食之。泣而為瓊瑰、盈其懷、從而歌之曰、濟洹之水、贈我以瓊瑰、焯乎焯乎、瓊瑰盈吾懷乎。懼不敢占也。還自鄭、壬申、至于鯉脈而占之曰、余恐死、故不敢占也。今衆繁而從余三年矣。無傷也。言之之莫而卒。」〔《左傳》成公十七年傳〕

(57) 「楚子成章華之台、願以諸侯落之。大宰遠啓疆曰、臣能得魯侯。遠啓疆來召公。……公將往、夢襄公祖。梓慎曰、君不果行、襄公之適楚也、夢周公祖而行。今襄公實祖。君其不行。子服惠伯曰、行。先君未嘗適楚、故周公祖以道之。襄公適楚矣。而祖以道。君不行何之。三月、公如楚。」〔《左傳》昭公七年傳〕

(58) 「十一月、宋公元公將為公故如晉。夢大子欒即位於廟、己與平公服而相之。且召六卿。公曰、寡人不佞、不能事父兄。以為二三子憂、寡人之罪也。若以群子之靈、獲保首領以沒。唯是棼棼所以藉幹者。請無及先君。仲幾對曰、君若以社稷之故、私降昵寔。群臣弗敢知。若夫宋國之法、死生之度、

先君有命矣。群臣以死守之、弗敢失隊。臣之失職、常刑不赦。臣不忍其死、君命祇辱。宋公遂行。己亥、卒于曲棘。」

〔《左傳》昭公二十五年傳〕

(59) 「晉侯夢與楚子搏。楚子伏己而盪其腦、是以懼。子犯曰、吉、我得天、楚伏其罪、吾且柔之矣。……己巳、晉師陳于莘北。……狐毛狐偃、以上軍夾攻于西。楚左師潰、楚師敗績。」〔《左傳》僖公二十八年傳〕

(60) 「衛侯夢于北宮、見人登昆吾之觀。被髮北面而譟曰、登此昆吾之虛、縣縣生之瓜。余為渾良夫、叫天無辜。公親筮之、胥彌赦占之曰、不害。與之邑、寘之、而逃奔宋。……初、公登城以望見戎州。問之、以告、公曰、我姬姓也。何戎之有焉。藹之。公使匠久。公欲逐石圃。未及而難作。辛巳、石圃因匠氏攻公。……公入于戎州己氏。……既入焉、而示之璧曰、活我。吾與女璧。己氏曰、殺女、璧其焉往。遂殺之、而取其璧。」〔《左傳》哀公十七年傳〕

(61) 「衛襄公夫人姜氏無子。嬖人嬀始生子孟繫。孔成子夢康叔謂己、立元、余使羈之孫圉與史苟相之。史朝亦夢康叔謂己、余將命而子苟、與孔烝鉏之曾孫圉、相元。史朝見成子、告之夢、夢協。晉韓宣子為政、聘于諸侯之歲、嬀始生子、名之曰元。孟繫之足不良能（校勘記は「弱」）行。孔成子以周易筮之曰、元尚享衛國、主其社稷、遇屯䷂。又曰、余尚立繫、尚克嘉之。遇屯䷂之比䷇。以示史朝。史朝曰、元亨、

又何疑焉。成子曰、非長之謂乎。對曰、康叔名之、可謂長矣。孟非人也。將不列於宗、不可謂長。且其繇曰、利建侯。嗣吉、何建、建非嗣也。二卦皆云、子其建之、康叔命之、二卦告之。筮襲於夢、武王所用也。弗從何為。弱足者居、侯主社稷、臨祭祀、奉民人。事鬼神、從會朝。又焉得居、各以所利。不亦可乎。故孔成子立靈公。」〔《左傳》昭公七年傳〕

(62) 「初、襄公有賤妾、幸之、有身。夢有人謂曰、我康叔也。令若子必有衛、名而子曰元。妾怪之、問孔成子。成子曰、康叔者、衛祖也。及生子、男也。以告襄公。襄公曰、天所置也。名之曰元。襄公夫人無子、於是乃立元為嗣。是為靈公。」〔《史記》衛康叔世家〕

(63) 「冬狄圍衛。衛遷于帝丘、卜曰、三百年。衛成公夢康叔曰、相奪予享。公命祀相、甯武子不可。曰、鬼神非其族類、不歆其祀。杞郕何事。相之不享、於此久矣。非衛之罪也。不可以間成王周公之命祀。請改祀命。」〔《左傳》僖公三十一年傳〕

(64) 「冬、鄭穆公卒。初、鄭文公有賤妾曰燕姑。夢天使與己蘭、曰、余為伯儵、余而祖也。以是為而子、以蘭有國香。人服媚之如是。既而文公見之、與之蘭而御之、辭曰、妾不才、幸而有子、將不信、敢微蘭乎。公曰、諾。生穆公、名之曰蘭。」〔《左傳》宣公三年傳〕

(65) 「宋人困曹，鄭桓子思曰，宋人有曹。鄭之患也。不可以不救。冬，鄭師救曹，侵宋。初，曹人或夢，衆君子立于社宮，而謀亡曹。曹叔振鐸請待公孫強，許之。且而求之曹，無之，戒其子曰，我死，爾聞公孫強為政，必去之。及曹伯陽即位，好田弋，曹鄙人公孫強好弋，獲白鴈獻之，且言田弋之說，說之，因訪政事，大說之。有寵，使為司城以聽政。夢者之子乃行。強言霸說於曹伯。曹伯從之。乃背晉而好宋。宋人伐之。晉人不救。築五邑於其郊。曰，黍丘、揖丘、大城、鍾、邗。」〔左傳〕哀公七年傳

(66) 「鄭人相驚以伯有，曰伯有至矣，則皆走不知所往。鑄刑書之歲二月。或夢伯有介而行。曰，壬子，余將殺帶也。明年壬寅，余又將殺段也。及壬子，駟帶卒，國人益懼，齊燕平之月。壬寅，公孫段卒，國人愈懼，其明月，子產立公孫洩及良止以撫之，乃止。子大叔問其故，子產曰，鬼有所歸，乃不為厲。吾為之歸也。大叔曰，公孫洩何為。子產曰，說也。為身無義而圖說。從政有所反之，以取媚也。」〔左傳〕昭公七年傳

(67) 「初，趙盾在時，夢見叔帶持要而哭，甚悲，已而笑，拊手且歌。盾卜之，兆，絕而後好。趙史援占之曰，此夢甚惡，非君之身，乃君之子，然亦君之咎。至孫，趙將世益衰。屠岸賈者，始有寵於靈公，及至於景公而賈為司寇，將作難，乃治靈公之賊以致趙盾，徧告諸將曰，盾雖不知，猶為賊首。」

以臣弑君，子孫在朝，何以懲暴，請誅之。韓厥曰，靈公遇賊，趙盾在外，吾先君以為無罪，故不誅。今諸君將誅其後，是非先君之意而今妄誅。妄誅謂之亂。臣有大事而君不聞，是無君也。屠岸賈不聽。韓厥告趙朔趣亡。朔不肯曰，子必不絕趙祀，朔死不恨。韓厥許諾，稱疾不出。賈不請而擅與諸將攻趙氏於下宮，殺趙朔·趙同·趙括·趙嬰齊，皆滅其族。」〔史記〕趙世家

(68) 「秋，齊侯伐我北鄙。中行獻子將伐齊。夢與厲公訟弗勝。公以戈擊之，首隊於前。跪而戴之，奉之以走，見梗陽之巫臯。他日，見諸道，與之言同。巫曰，今茲主必死，若有事於東方，則可以逞。獻子許諾。晉侯伐齊，將濟河。獻子以朱糸係玉二穀而禱曰，齊環怙恃其險，負其衆庶，棄好背盟。陵虐神主。曾臣彪將率諸侯以討焉。（以上，十八年）……荀偃瘡疽。生瘍於頭。……二月甲寅卒。（以上，十九年）」〔左傳〕襄公十八年傳·十九年傳

(69) 「秋七月，秦桓公伐晉，次于輔氏。壬午，晉侯治兵于稷，以略狄土。立黎侯而還。及雒，魏顆敗秦師于輔氏，獲杜回。秦之力人也。初，魏武子有嬖妾，無子。武子疾。命顆曰，必嫁是。疾病則曰，必以為殉。及卒，顆嫁之，曰，疾病則亂。吾從其治也。及輔氏之役，顆見老人結草以亢杜回。杜回踰而顛，故獲之。夜夢之曰，余而所嫁婦人之父也。爾用先人之治命。余是以報。」〔左傳〕宣公十五年傳

(70) 六月，癸酉，季孫行父、臧孫許、叔孫僑如、公孫嬰齊、帥

師會晉郤克、衛孫良夫、曹公子首、及齊侯戰于鞍。齊師敗績。」

〔左傳〕成公二年經「齊師敗績，逐之，三周華不注。韓厥

夢子輿謂己曰，且〔校勘記〕旦」辟左右。故中御而從齊侯。

邴夏曰，射其御者，君子也。公曰，謂之君子而射之，非礼也。

射其左，越于車下。射其右，斃于車中。」〔左傳〕成公二年傳

(71) 初，穆子去叔孫氏。及庚宗，遇婦人。使私為食而宿焉。

問其行，告之故，哭而送之。適齊娶於國氏，生孟丙仲壬、

夢天庠己，弗勝。顧而見人，黑而上僂。深目而顴，喙，号之

曰，牛助余，乃勝之。且而皆召其徒，無之。且曰，志之。

……魯人召之，不告而歸。既立，所宿庚宗之婦人，獻以雉，

問其姓。對曰，余子長矣。能奉雉而從我矣。召而見之，則

所夢也。未問其名，号之曰牛。曰唯，皆召其徒，使視之，

遂使為豎。有寵，長使為政。……〔穆子〕田於丘猶，遂遇

疾焉。豎牛欲乱其室而有之。強与孟盟，不可。……使拘而

殺諸〔孟丙〕外。牛又強与仲盟，不可。……遂逐之〔仲壬〕、

奔齊。疾急，命召仲。牛許而不召。杜洩見，告之飢渴，授

之戈。對曰，求之而至，又何去焉。豎牛曰，夫子疾病，不

欲見人。使饋饋于个而退。牛弗進，則置虛命徹。十二月，

癸丑，叔孫不食，乙卯卒。」〔左傳〕昭公四年傳

(72) 孟僖子會邾莊公盟于禚，修好，礼也。泉丘人有女，夢

曰，有子，無相棄也。僖子使助遠氏之籛，反自禚，宿于

遠氏，生懿子及南宮敬叔於泉丘人，其儻無子。使字敬叔。」

〔左傳〕昭公十一年傳

(73) 十二月，辛亥，朔，日有食之。是夜也。趙簡子夢童子裸

而輒以歌。旦占諸史墨曰，吾夢如是，今而日食何也。對曰，

六年及此月也。吳其入郢乎。終亦弗克。入郢必以庚辰，日

月在辰尾。庚午之日，日始有謫，火勝金，故弗克。」〔左傳〕

昭公三十一年傳

(74) 晉侯夢大厲，被髮及地，搏膺而踊。曰殺余孫不義。余得

請於帝矣。壞大門及寢門而入，公懼入于室，又壞戶。公覺，

召桑田巫。巫言如夢，公曰，何如，曰，不食新矣。公疾病，

求医于秦。秦伯使医緩為之。未至，公夢疾為一豎子曰，彼

良医也。懼傷我焉。逃之。其一曰，居肅之上，膏之下，若

我何。医至曰，疾不可為也。在肅之上，膏之下，攻之不可，

達之不及。藥不至焉。不可為也。公曰，良医也。厚為之礼

而歸之。六月，丙午，晉侯欲麥。使甸人獻麥。饋人為之，

召桑田巫，示而殺之。將食，張，如廁，陷而卒。」〔左傳〕

成公十年傳

(75) 春，原屏放諸〔趙嬰〕齊。嬰曰，我在，故欒氏不作。我

亡，吾二昆其憂哉。且人各有能有不能。舍我何害，弗聽。

嬰夢天使謂己祭余。余福女，使問諸士貞伯。貞伯曰，不識

也。既而告其人。曰，神福仁而禍淫。淫而無罰，福也。祭



其得亡乎。祭之之明日而亡。」〔左傳〕成公五年傳)

(76) 「先戰、夢河神謂己曰、畀余、余賜女孟諸之麋。弗致也。

大心与子西、使榮黃諫。弗聽、榮季曰、死而利國。猶或為之、况瓊玉乎。是糞土也。而可以濟師。將何愛焉。弗聽、

出告二子曰、非神敗令尹。令尹其不勤民。實自敗也。既敗、

王使謂之曰、大夫若入、其若申息之老何。子西孫伯曰、得臣將死、二臣止之曰、君其將以為戮、及連穀而死。」〔左傳〕

僖公二十八年傳)

(77) 「晋侯有疾。鄭伯使公孫僑如晋聘、且問疾。叔向問焉曰、

寡君之疾病、卜人曰、實沈台駘為祟。史莫之知、敢問此何神也。子產曰、昔高辛氏有二子、伯曰閼伯、季曰實沈。居于曠林。不相能也。日尋干戈、以相征討。后帝不臧、遷閼

伯于商丘、主辰、商人是因、故辰為商星。遷實沈于大夏。

主參。唐人是因、以服事夏商。其季世曰唐叔虞、当武王邑

姜、方震大叔、夢帝謂己、余命而子曰虞。將与之唐、屬諸參、而蕃育其子孫。及生有文在其手、曰虞。遂以命之、及

成王滅唐、而封大叔焉。故參為晋星。由是觀之、則實沈、

參神也。昔金天氏有裔子曰昧。為玄冥師、生允格、台駘。

台駘能業其官、宣汾洮、障大澤、以処大原。帝用嘉之、封

諸汾川。沈、姒、蓐、黃、實守其祀。今晋主汾而滅之矣。

由是觀之、則台駘汾神也。抑此二者、不及君身。山川之神、

則水旱疢疫之災。於是乎祭之。日月星辰之神、則雪霜風雨

之不時。於是乎祭之。若君身、則亦出入飲食哀樂之事也。

山川星辰之神、又何為焉。」〔左傳〕昭公元年傳)

(78) 「顏回見仲尼、請行。……願以所聞思其則、庶幾其国有瘳

乎。……仲尼曰、惡。惡可。大多政、法而不謀、雖固亦无

罪。雖然、止是耳矣。夫胡可以及化。猶師心者也。顏回曰、

吾无以進矣、敢問其方。仲尼曰、齋、吾將語若。……回

曰、敢問心齋。仲尼曰、若一志、无聽之以耳而聽之以心、

無聽之以心而聽之以氣。聽止於耳、心止於符。氣也者、虛

而待物者也。唯道集虛、虛者、心齋也。」〔莊子〕人間世)

(79) 「恭默思道、夢帝賚予良弼。其代予言。乃審厥象、俾以形

旁求于天下。說築傅巖之野。惟肖。爰立作相、王置諸其左

右。」〔尚書〕商書·說命)

(80) 「帝小乙崩、子帝武丁立。帝武丁即位、思復興殷、而未得

其佐。三年不言、政事決定於冢宰、以視國風。武丁夜夢得

聖人。名曰說。以夢所見、視群臣百吏皆非也。於是迺使百

工當求之野、得說於傅險中。是時說為胥靡、築於傅險。見

於武丁、武丁曰是也。得而与之語、果聖人、舉以為相、殷

國大治。故遂以傅險姓之、号曰傅說。」〔史記〕股本紀)

(81) 「下筮上簞、乃安斯寢。乃寢乃興、乃占我夢。吉夢維何。

維熊維羆、維虺維蛇。大人占之。維熊維羆、男子之祥。維

虺維蛇、女子之祥。」〔詩經〕小雅·斯干)

(82) 「牧人乃夢、衆維魚矣、旒維旗矣。大人占之。衆維魚矣、

夷維豐年。旃維旗矣、室家濼濼。」〔《詩經》小雅・無羊〕

ある。

(83) 「斯干、宣王考室也。」〔《詩經》小雅・斯干小序〕、「無羊、宣王考牧也。」〔《詩經》小雅・無羊小序〕

(84) 「陳氏曰、宮室成而考之、故以人君之夢而書其祥。牧成而考之、故以牧人之夢而書其祥。」〔呂氏家塾說詩記〕小雅・無羊

(85) (注81) (注82) を参照。

(86) 「大人大卜之属、占夢之官也。」〔《詩集傳》小雅・斯干「大人占之」〕

(87) 「正義曰、以占夢之官中士耳而言大人占之、明其法天人所為。故云、聖人占夢之法占之。聖人有法解則占之。故左伝文公之夢、子犯占之、簡子之夢、問諸史墨。不必要占夢之官、乃得占也。」〔《詩經》小雅・斯干「大人占之」孔穎達疏〕

(88) 「召彼故老、訊之占夢。具曰予聖。誰知烏之雌雄。」〔《詩經》小雅・正月〕

(89) 「訛言之人、是而謂之非、非而謂之是、其虛偽反覆甚矣。非有明哲之君、孰能弁而懲之哉。故老明於臧否者也。占夢明於吉凶者也。此國之所頼以正訛者也。令問之故老、故老曰、予聖矣、而未必明於臧否之理、問之占夢。占夢亦曰、予聖矣、而未必明於吉凶之兆、則亦誰能別其言之是非乎。」

(明 朱善『詩解頤』卷二 正月)

(90) 『韻海』は不明。『集韻』には「寐中語也。一曰寐声」と